





目次

会長挨拶	04
あゆみ	06
事業活動の総括	08
ボランティア - ブラジルでの経験と貢献	18
進歩と展望: 未来構想	24

サンパウロ日伯援護協会

本部部署

巡回診療班	30
会員課	32

医療

日伯友好病院	34
サンミゲル・アルカンジヨ病院	38
レオ・オルシ・ベルナルデス（イタペチニンガ）病院	40
リバルダーデ医療診断センター	42
日伯友好病院福祉部	44
自閉症児療育施設 - PIPA	46

運営概況

2023-2025 評議員会	50
2023-2024 理事会、監査役会	51
組織図	52
地区委員一覧	53
運営に関する活動報告	54
2023-2024 年 専門委員会	55
施設幹部職員一覧	56
2024年度決算報告	57
2025年度設備投資計画	58
2025年度予算	59
2025年度日伯友好病院総合予算	60
2025年度行事	61

日伯福祉援護協会

福祉部

福祉部

64

福祉部サービス

デイサービスセンター援協

66

社会福祉

サントス厚生ホーム

68

さくらホーム

70

イペランジアホーム

72

あけぼのホーム

74

運営概況

2023-2025 評議員会

78

2023-2024 理事会、監査役会

79

組織図

80

運営に関する活動報告

81

2023-2024 年 専門委員会

82

施設幹部職員一覧

83

2024年度決算報告

84

2025年度予算

85

2025年度設備投資計画

86

2025年度行事

87



会長挨拶

私の援協でのキャリア（経歴）がどのように始まったのか、この事業報告書に記したいと思います。

援協の理事会に招かれたとき、私は生長の家ブラジルの理事を務めていました。生長の家ブラジルの理事を20年間務め、2021年3月から24年2月までの3年間は副理事長を務めました。

1997年に援協会長だった和井武一氏は、当時生長の家ブラジルの理事長だった向井芳夫氏を訪ね、援協理事会に生長の家の代表を加えてほしいと要請しました。私は生長の家ブラジルの理事に任命されるとともに、97年に援協の理事にも就任。97年から2020年まで援協理事と専門委員会の委員と

なり、21年から24年までは会長を務めるなど、援協には28年間ボランティアとして参画してまいりました。

2024年10月には会長として最後となる3期目（25年／26年）に再選され、6年間にわたって会長を務めることになりました。援協では、5人の副会長が献身的かつ積極的に活動し、評議員会、監査役会の支援も受けているため、すべての活動が円滑に進められております。

話は変わりますが、援協の2024年度の事業報告書の内容を紹介いたします。

事業報告書は、サンパウロ日伯援護協会（援協）と

日伯福祉援護協会のスナップ写真をはじめ、賛助会員、協力会員、評議員会、理事会、監査役会のメンバーや、その他の団体、および関心のある方々に援協の活動を知っていただくための冊子です。

この報告書には、援協の組織図、評議員会、理事会、執行委員会および監査役会、地区委員、専門委員会の各メンバーのほか、事業計画、投資、年間予算、貸借対照表や援協が推進する年間行事などの重要な情報が記載されています。援協の活動についてさらに詳しくお知りになりたい方は、2024年度事業報告書を一読ください。

ここ数年、医療分野では競争が激しく、大手医療保険会社、病院、診断検査クリニックが合併するなど非常に厳しい状況が続いております。例えば、Bradesco SaúdeとBeneficência PortuguesaとFleury、Bradesco SaúdeとRede D'Or、DasaとAmil、AliceとQsaúde、Porto SeguroとOnco Clinicasの提携などが挙げられます。我が日伯友好病院もまた、こうした医療業界の動向に苦しみ、当病院のサービスと収益性に影響を及ぼしております。

そうした中、日伯友好病院では患者のケアと快適性を向上させ、医療業界における競争力を維持するための計画として、病院の隣接地に地下2階の駐車場、中2階（メザニーノ）を備えた6階建ての新しい病棟を建設することを決定しました。現在、新しい病棟を受け入れるためのインフラはすべて整っており、基礎工事も始まっております。同時に現在の既存の病棟を改修し、病院内に

おける患者の診療の流れを改善するとともに、最も古い病棟は37年前に建てられたものであるため、入院設備を現在の法律に沿ったものにする予定です。

現在、日伯友好病院の外来診療所は、病院周辺の各ブロックに購入したり借りたりするなど分散しておりますが、患者や医師の移動を改善するため、病院の隣接地に2棟の外来診療所も建設する予定です。新病棟の建設に伴って車の出入りが増えるため、法律で駐車スペースを増やすことが義務付けられており、建設される2棟の外来診療所は地下2階分の駐車場が必要となるのです。

最後に、援協のためにいつも献身的に協力していただいている会員の皆様方をはじめ、評議員会、理事会、監査役会と一般従業員のメンバーの方々に心から感謝の意を表したいと思います。どうもありがとうございました！

税田 パウロ 清七
会長



CMD DO HNIPO

援協実費診療所の開所
(現・リベルダーデ医療診断センター)



KOSEI HOME

サンパウロ市リベルダーデ区内に厚生ホーム(現・サントス厚生ホーム)を開設。1974年に施設はサントス市内へ移転。



HNIPO

日伯友好病院を開院

1962年

1971年

1988年

20

1965年

1983年

1994年

1959年

サンパウロ日伯援護協会の設立

1959年1月28日、日本人のコロニアの代表者32名が集まり、受け入れと連帯を強化するため、第二次世界大戦後にブラジルに到着した移民を支援する日本移民援護協会が設立された。



SAKURA

サンクルス慈善協会により、サンフランシスコ・シャビエル結核診療所(現・さくらホーム)の経営権を委譲される

IPELÂNDI A HOME

イペランジアホームを開所



UNIDADE COMUNITÁRIA DO HNIPO

日伯友好病院福祉施設を開設





AKEBONO

高齢者特別養護施設あけぼのホームを開所



SEDE DA

援協本部の新たな活動拠点



ANBASE

日伯福祉援護協会の開設

2003年

2009年

2014年

2006年

2013年

2022年

ARI
PO
部

HSMA

サンミゲル・アルカンジョ病院を開院し、2015年に病院内に救急診療所を開設



PIPA

自閉症児療育施設-PIPAを開設



HLOB

レオ・オルシ・バルナデス(イタパチニンガ)病院の運営を開始

医療ハイライト

2024年はサンパウロ日伯援護協会と日伯福祉援護協会の活動により、医療と福祉の分野で大きく進歩し、地域住民や患者さんの生活向上に貢献できている。

レオ・オルシ・ベルナルデス（イタペチニンガ）病院の救急外来改修工事もその一つで、最新の医療の提供を心掛けている。

サンパウロ日伯援護協会と日伯福祉援護協会の医療と福祉部門の幾つかの改善を紹介。

サンパウロ日伯援護協会とイタペチニンガ市による新救急センター

2月8日にサンパウロ日伯援護協会とイタペチニンガ市が救急病院の救急外来新エリアの開会式を行った。既存の建物部分の7割を改修し、1万平方メートルの拡張にJICA助成金の800万レアイスとサンパウロ日伯援護協会が2千万レアイスを投資。受付のリニューアルやトモグラフィー等、最新の医療機器を設置。改修工事により、受付キャパシティを57%増やし、職員数もサンパウロ日伯援護協会が運営を開始してから2割ほど増員。改修工事ではエアコン設置やパソコンの交換、太陽光発電パネルの設置も行った。



ブラジル私立病院協会（ANAHP）イベントにて日伯友好病院福祉部の取り組みが評価される

2023年の日伯友好病院福祉部による福祉・運営・環境保存の取り組みがANAHPに認められ、2月22日のイベントにて「医療部門の福祉取り組み」について発表を行った。

発表内容は成功している取り組みについてであり、福祉部で受け付けている家族の自立を促す活動を行い、幾つかの家族は結果を得て生活も良くなってきている。

PIPA児童が第一回EXPOTEAに参加

2024年6月7日に行われた第一回EXPOTEA（国際自閉症展）では、PIPA児童12人が舞台上で音楽の発表を行った。講義、ワークショップ、パネルディスカッション等、自閉症についての情報交換が行われた。



UNIDAS-ブラジルの生命保険会社を統一する非営利団体が自閉症に関するリーフレットを発行

UNIDASは7月に自閉症に関するリーフレットを発行。自閉症児への対応や施設の運営・訓練プログラムなどを掲載。

自閉症児療育施設PIPAもTVD日常生活療法の紹介を行い、この療法は7月24日号のVEJA雑誌にも取り上げられた。

リベルダーデ医療診断センター で高齢者無料検診を実施

日本移民116周年と高齢者の日を祝して、リベルダーデ医療診断センターでは、6月と10月に第15回と第16回高齢者無料検診を実施。

血液像検査、尿素、クレアチニン、血糖値、GOT/AST、GTP/ALT、前立腺特異抗原PSA（男性のみ）、検尿、血圧測定、体重測定、身長測定等を提供。

6月には323人を、10月には220人を受け付けた。新しい試みとして、検査結果と指導を郵送ではなく、医師が行った。



リベルダーデ医療診断センターで被爆者健診実施

10月17日にリベルダーデ医療診断センターにて、第二次世界大戦を生き延びた被爆者の方の健診を実施。全世界での生存者114人のうち、71人はブラジルに在住し、一部の方が毎年リベルダーデ医療診断センターで人間ドックを受けている。

今回は、広島と長崎からの医師・看護師と両市職員の医療チームが健診を行った。

両市は健診実施費用以外にも、ブラジルの医師を対象に災害被災者への対応が組み込まれた研修プログラムを実施し、日伯友好病院も36人以上の医師を研修に送り出している。



日伯友好病院新小児集中治療室を開設

小児患者増加に対応するため、日伯友好病院では9月19日に20床の小児集中治療室を開設した。

この増設は地域の小児患者に対する救急医療の強化を目指す病院拡張計画の一環である。複雑な症例に対応する準備を整えつつ、小児患者が発症しやすい喘息や肺炎等の気管支関連の入院が必要となる病気にも対応。



福祉 ハイライト

福祉部門では、ソーシャル・インクルージョン、生活の質の改善のための活動を実施。リーンメソッドを用いたサービス効率化、高齢者向けの交流イベント、メンタルヘルスとインクルージョンに関する講演会等、より公平で助け合う社会を目標に活動を行った。

あけぼのホームがリーンメソッドを用いてサービス提供改善と高齢者の安全を目指す

「Honsha」コンサルティング会社はLean for Hopeプロジェクトを実施するため10の施設を厳選し、あけぼのホームも選ばれた。1月3日にHonshaの先生方がリーンメソッドによる無駄を軽減し、作業の効率化に向け、ホーム職員に指導した。

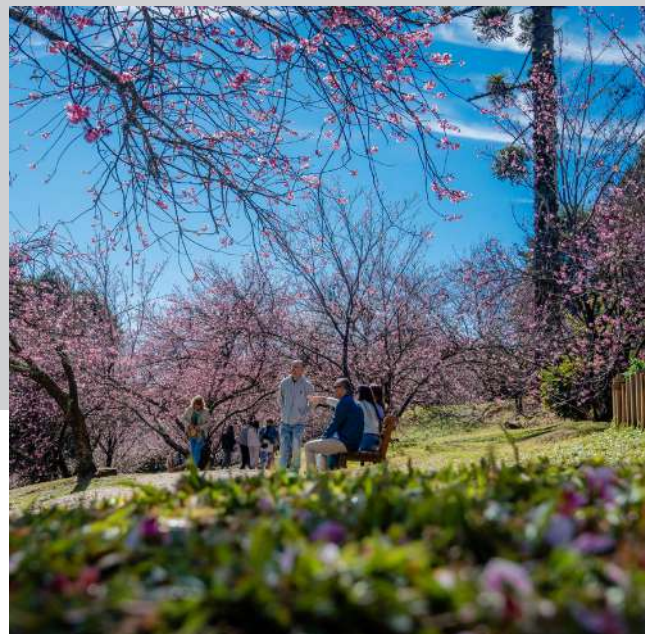
このプロジェクトでは、高齢者を取り巻く危険や環境改善、特に要介護3レベルの高齢者の転倒防止を中心に調査し、浮かび上がった問題点の改善を検討した。その際、サービスの質を下げず、コスト削減にも重点を置いた。



あけぼのホームが看護週間 を講演会と音楽で祝う

看護週間を祝って、あけぼのホームでは5月20～25日の間、多くの活動イベントを開催した。医師の平塚マルセウ先生やサンパウロ市Coren相談員のマリアノ・ヴァウデニルさんとダリオ・ジョアオさんによる講演会も開催。

週間の最後には、入居者親族のひかりバンドによる特別ショーもあり、入居者と職員に楽しんでもらった。



さくらホームにて第53回さくら 祭りを開催

さくらホームでは第53回さくら祭りを開催。カンポス・ド・ジョルドン市での恒例行事で、さくらホーム隣接のさくら園で7月と8月に行われる。入居者作成の手芸品販売を行い、売り上げはホームの運営資金としている。さくら祭りはカンポス・ド・ジョルドン市の文化無形遺産に登録されている。

診療内科医の久田スエリ先生による自殺とうつ病をテーマとした講演会 を実施

6月22日に診療内科医の久田スエリ先生による講演会が行われた。自殺防止を呼び掛けるとともに、参加費をPIPA援助としてご寄付いただいた。

うつ病を患い、2018年に自殺したアンソニー・ボーディン シェフを例に、講演が進められた。

スエリ先生は心理学に基づいてうつ病や未成年・成人の自殺傾向について説明し、問題の複雑さと専門家の助けを求めることの重要性を参加者へ訴えた。

サントス厚生ホーム創立50周年 式典開催

9月21日にサントス厚生ホームの入居者及び約300人の招待客が集まり、創立50周年式典が行われた。

式典では、当協会理事、サントス日本人会、サンビセンテ日伯協会、ボランティアの皆さんに感謝状が渡された。

ホーム入居者によるコーラス発表など、盛りだくさんプログラムで来場者に楽しんでもらった。

閉会式の後、ファリアス・ビュッフェが用意した昼食で参加者をもてなした。



厚生ホームが第2回絆 (KIZUNA)ゲームを優勝

10月30日に日伯福祉援護協会傘下の4つの高齢者養護施設が第2回絆(KIZUNA)ゲームを開催。高齢者養護施設の理学療法士の集まりの際に提案され、4施設の入居者と職員の交流とレクリエーションのために行っている。

今回はイペランジアホームを会場とし、朝食を用意して参加者をもてなした。その後、バレーボール、ボーリング、かけっこ等のゲームを競って楽しんだ。

入居者たちは各施設の職員に指導、手助けされながらゲームに参加した。

第2回大会優勝はサントス厚生ホームで、次回の会場はサントスとする。授賞式の後で昼食が振舞われ、職員や入居者同士で楽しく盛り上がった。

カンパス・ド・ジョルドン市で「いのちプロジェクト」の集いが開催された

11月5日にユダヤ教会主催でカンパス・ド・ジョルドン市高齢者施設入居者を対象に「いのちプロジェクト」集いが開催された。ユダヤ人コミュニティの女性達による試みで、参加者に楽しく、交流の場を提供するために行われている。

予想を遥かに上回る高齢者たちの参加があり、レクレーションやゲームを楽しんだ。

最後に軽食が振舞われ、記念品も配られた。会場へ行けなかった高齢者にも記念品を贈るなどの配慮もされ、素晴らしいイベントだった。

第54回老人週間

10月3・4日に日伯福祉援護協会福祉部による第54回老人週間が開催された。バザーやゲームなど、様々な活動を行い、参加者同士の交流や学びの場となった。



日伯友好病院診療内科医のタニジョニ・ジュリアナ先生による講演会

日伯友好病院診療内科医のタニジョニ・ジュリアナ先生による講演会を3月・4月・7月に日伯福祉援護協会傘下の4つの高齢者養護施設で開催した。職場環境と人間関係の改善や職員の研修を目的に行った。





JICAボランティア- ブラジルでの経験と貢献

JICAの派遣制度で当施設で活動されているボランティアの皆さんは、高齢者の活動支援以外にも様々な経験を積み、ボランティア同士でそれぞれの分野での違いや貢献内容の情報交換を行っている。



柴崎 郁美 デイサービスセンター援協・作業療法士



Muito prazer! 昨年11月末、日本からJICA海外協力隊として赴任しました柴崎郁美(しばさきいくみ)、高齢者専門の作業療法士です。私の住んでいる山口県では多くの高齢者が1人暮らしをされており、皆さん「自分のことは自分でしたい」と話されます。それは地球の裏側でも一緒のようで、援協デイサービスセンターに来られる

方々も「健康で子供達のお世話にならず、自立した生活を継続する」ことを望まれています。先の見えない不安を少しでも共有し自信に繋がられる…その様なボランティア活動を提供したいと思っています。最近日本で『恩送り』という言葉聞くようになりました。恩返しは多くの方がご存じだと思いますが『恩送り』とは『次世代な

ど他の方々に恩を送る事』を言います。「救われた人は救う人になる」ポルトガル語では『gentileza gera gentileza』優しさの数珠つなぎ、恩送りをここでしたいと思います。



井上彩美 サントス厚生ホーム・作業療法士

2024年11月ブラジルに到着し、同年12月よりサントス厚生ホームで作業療法士として活動を開始しました。日本では病院や高齢者施設に6年間勤務していました。JICA海外協力隊への参加は作業療法士になってからの目標でした。海外でのボランティア活動に挑戦したいという気持ちから応募しました。高齢者と接することが好きで、活動も高齢者に対して作業療法を展開する要請を選び、この度ブラジルに派遣して頂きました。

サントス厚生ホームに到着して、利用者様も職員もみんな暖かく迎え入れてくださいました。活動は始まったばかりですが、朝のラジオ体操に始まり、集団体操や創作活動の提供などできることから活動を開始しています。ポルトガル語でのコミュニケーションに苦戦する日々ですが、学び続けて施設に早く馴染んでいきたいです。これからも利用者様の笑顔をたくさん増やすことができるように自分にできることを探していきたいと思います。





齋藤 祐子 自閉症児療育施設-PIPA・特別支援教育

JICAへの応募動機及び日本での経験

日本では特別支援学校の小学部から高等部迄の教員として勤務した。10年前、JICAシニア海外協力隊 障がい児者支援分野でマレーシアに派遣され活動し、各学校の巡回訪問及び、現地教員に教材作成法や自閉症特性についてのワークショップをケダ州全域で実施、その内訳は社会福祉局主催2回、教育局主催5回、その他個人的要請2回である。マレーシアでは障がい児教育が始まったばかりで、一つの学校に8クラス程度の障がい児学級があり、現地教員に対する支援として配属された。現地では指導法、教材作成法等伝え、障がい児教育の啓発に

種を蒔いたが、定着には至らなかった点があり、今回のJICA応募に至った。この分野の希望で特に国を指定したわけではない。

援協に対する印象

日系社会についての事前学習ではこの国における日本の移民の歴史を突き付けられた感があり、学校歴史で学習する歴史に比較してあるその重みを真摯に受け止めなければならない緊張感があった。今後はそれらを踏まえた上で今この国と日本とのさらなる協調関係を構築できるような活動に携わっていきたいと考える。



渡辺 尚子 あけぼのホーム・高齢者介護

私は高齢者支援の重要性を感じており、在宅介護、デイセンター、在宅援助の経験を積んできました。ブラジルで貢献したいと思い、この機会に登録しました。あけぼのホームでは、チームが情熱を持って働いていることに気づき、入居者との距離感 日本とはやり方は違いますが、お年寄りを大切にする気持ちは同じです。

現在は入居者の毎日がより楽しくなるように、個人活動や季節の飾り付けなどを行っています。これらの活動を通じて、住民に喜びと幸福のひとつときを提供したいと考えています。





山路 善太郎 イペランジアホーム・高齢者介護

イペランジアホームで高齢者介護に携わっている山路善太郎です。働きながら国際貢献をしたいと考え、海外協力隊に応募しました。日本ではデイサービス等の業務に従事していました。配属先は、地域ボランティアの支えが施設運営において大きな役割を果たしていることが印象的です。活動は、運動会やクリスマス会等の季節イベントの他、脳トレ、ものづくり、体操、ゲートボール等のレクリエーションを実施しています。入居者の皆様が集中して取り組む姿や、笑顔で「楽しかった

よ」と言ってくれる瞬間に、大きなやりがいを感じます。また、SNSや施設内に掲示した写真をご覧になったご家族から感謝の言葉をいただくことも、励みになっています。今後も季節感を大切にしながら、入居者の興味や関心に合った楽しい企画を提供していきたいと考えています。入居者の皆様が喜びを感じ、それが生活意欲につながる活動を継続できるよう、引き続き努めてまいります。





阿部 則子 さくらホーム・管理栄養士



日本の病院や福祉施設において、調理を含む栄養業務や栄養ケアプロセスに従事していた管理栄養士としての経験を活かし、活動要項を見て「これやりたいな」と感じた事から、協力隊への参加は人生のやりたいことの目標の1つでもあったので、思い切って今回応募し貴重な機会を得ることができました。配属先のさくらホームは、施設や環境が非常に素晴らしく、穏やかな時間が流れています。自然に恵まれた場所で、今の

時期は木々の緑が心を癒してくれています。現在の活動としては、日本食に限らず多様な料理を試作り、好評を得たものをメニューに取り入れることを目標にしています。また月に1度「日本食献立の日」を設け、さらに週に2回の嚙下体操も始めました。

今後、高齢化が進む事により健康管理の重要性が一層高まるため、利用者様のニーズに応じた食事の提供についても協力していきたいです。



進歩と展望： 未来構想

サンパウロ日伯援護協会は、社会への貢献がより良い社会づくりや発展へと繋がることを信じている。そのため、当協会は継続的に社会的投資を行い、サービスの向上に努め、社会を良い方向へ導いていく。

戦略的提携：サポート体制の強化

当協会は、目標を達成するために協力の重要性を認識している。特に、イニシアティブを強化してくれる友好機関や政府機関との強固なパートナーシップを通じて、サービスの範囲を拡大するためのサポートネットワークを構築している。

イノベーションと絶え間ない改善：全ての人に質の高いサービスを提供

質の高いサービスを提供し、社会のニーズに応えるためにはイノベーションが不可欠であると考えている。そのため、革新的で効果的な課題や問題などを解決するシステムを求めて、テクノロジーおよび研究開発に投資している。

2024年、ある行動が大きな進展をもたらし、現在、同じ努力と献身をもって未来を決定するプロジェクトを共有させていただく。

次に、社会福祉への一連の継続的な取り組みについて紹介。





レオ・オルシ・ベルナルデス（イタパチニンガ）病院改修・増築工事

レオ・オルシ・ベルナルデス病院では2024年に幾つかの改修と増築工事が行われ、患者の受付サービス改善と職場環境改善に繋がった。

2月には約1,554平方メートルの新救急診療センターを開設。講堂、観察室、霊安室、メンテナンス道具室、衛生用品保管室、廃棄物保管室を完備。

7月には新更衣室設置により、従業員のプライベートスペースが確保された。新しい薬剤分割・保管スペースの工事も完了し、空調環境や安全な薬剤保管場所が整った。

9月には臨床検査室の工事が完了。145平方メートルの検査室では外部臨床分析・診断サービスの従業員が作業を行う。

更に11月には37平方メートルの新X線室工事が完了し、最新の設備での医療サービスを提供できるようになった。

病院の改修・増築工事は患者へ最新の医療サービス、快適で安全な空間を提供し、従業員の職場環境の改善を目指す取り組みである。

イペ棟改修工事

2023年9月に財団法人日本財団尾形武寿理事長が来伯された際にスザノ市市民賞授賞式が行われた。

イペランジアホームの視察訪問の時にイペ棟の改修工事の相談がされ、2001年に建設されたイペ棟は、機能性と快適性の面からも早急の改修工事が必要とされ、改修工事プロジェクトの組み立てが開始された。最終的に、プロジェクトは2024年9月に承認され、同年12月に改修工事が着工された。

イペ棟全体の改修工事内容は下記の通り：

- 内装材のリニューアル：

床材の交換により、モダンな空間に

- 寝室の改修：

アクセス性の向上のための各部屋のドアの取り換え。

- 共用スペースの改修：

メインルーム、活動室、入口ホールなどの共有スペースや事務所の改修により、快適で機能的な空間へ。

- 技術的および衛生基準への適合：

技術基準や衛生監視基準を満たすための取り組みも行った。

INVESTIMENTOS EM INFRAESTRUTURA E TECNOLOGIA DO HNIPO

Nova Cabine Primária

O projeto consistiu na construção de uma nova cabine primária para modernizar a infraestrutura elétrica do HNIPO, que era obsoleta e não atendia às demandas de novos equipamentos e à futura expansão da Nova Torre. A nova subestação garante maior capacidade energética, segurança e eficiência, viabilizando a instalação de tecnologias avançadas e acompanhando o crescimento do hospital. A etapa de operacionalização da migração dos sistemas elétricos para as novas cabines foi realizada sem interromper os atendimentos hospitalares.

Nova Central de Água Gelada

A construção de uma nova central de água gelada para o sistema de climatização do hospital, em substituição à central anterior com capacidade reduzida, foi realizada. A nova central proporciona maior eficiência térmica, garantindo climatização eficiente e contínua dos ambientes hospitalares, maior confiabilidade operacional e permitindo a climatização de novas áreas, acompanhando a expansão e modernização das infraestruturas hospitalares. A execução do projeto na cobertura do prédio apresentou desafios logísticos complexos devido ao porte dos equipamentos e às características estruturais da edificação.

Nova Usina Geradora de Energia

O projeto consistiu na construção de uma nova usina geradora de energia para o hospital, visando suprir a limitação dos geradores atuais e atender à demanda de novos equipamentos e expansão da Nova Torre. A nova usina garante maior confiabilidade, autonomia energética e capacidade de acompanhar o crescimento do hospital. Os principais desafios do projeto foram a escavação e contenção da usina, além da logística complexa para recebimento e instalação de equipamentos de grande porte em uma área com intenso fluxo de pessoas e veículos, sem interrupção das atividades e sem comprometer a segurança operacional.



Reforma e Integração do Laboratório em Parceria com o Fleury

O Hospital Nipo-Brasileiro, em parceria com o Laboratório Fleury, reformou a estrutura do antigo laboratório para modernizar e aprimorar os serviços oferecidos aos pacientes. A reforma permitiu a instalação de equipamentos modernos do Fleury e a integração dos sistemas do hospital e do laboratório, otimizando o fluxo de trabalho e agilizando o processamento de amostras. Essa iniciativa visa garantir um melhor atendimento e experiência para os pacientes do HNIPPO.

Nova Unidade Diagnóstica

O projeto incluiu a instalação de um moderno equipamento de ressonância magnética de 1,5 Tesla, visando ampliar a oferta e a qualidade dos exames de imagem. A instalação do equipamento representou um desafio técnico e logístico devido ao seu porte e peso, exigindo o uso de guindastes.

Além disso, como parte da preparação para o futuro Centro Médico Ambulatorial, o antigo ambulatório de coleta laboratorial foi remodelado. O novo espaço é mais amplo e acolhedor, com mais salas, áreas de coleta infantil e uma cafeteria, visando proporcionar uma experiência mais confortável e eficiente aos pacientes.







サンパウロ日伯援護協会は医療と福祉事業を展開している公益社会福祉法人で、日系コミュニティ含むブラジル社会の人々へ良質でヒューマニズムに基づく医療・福祉サービスを提供している。



巡回診療班

巡回診療は1920年代に、日本人移民を対象とした医療支援活動が日本政府の取り組みにより開始された。現在はJICAとサンパウロ日伯援護協会の資金にて活動を継続している。

対象者

日本語での診療対応を望む日系コミュニティの方々を対象とし、血液検査などの検査結果をその日に受け取ることが可能。

主な活動

巡回診療班は、サンパウロ州のいくつかの地域（主に日本人会のある地域）にて巡回診療を行っている。ポルトガル語と日本語で、慢性疾患、健康や栄養に関する医療支援とガイダンスを行っている。

スタッフ

医師、看護師、臨床検査技師、サポートスタッフで巡回診療を行っている。

設備

巡回診療マイクロバスには、臨床検査、眼科、婦人科、心電図検査の医療機器を完備。



年齢層		
	2023 年	2024 年
49 歳未満	23	32
50 - 69 歳	100	105
70 歳以上	612	578

国籍		
	2023 年	2024 年
ブラジル	269	261
日本 / 帰化	466	454

検査		
	2023 年	2024 年
有料	833	862
無料	4,961	4,374

援協巡回診療にはとても感謝しています。最初のコンタクトから終了まで、とてもスムーズで丁寧な対応をいただいています。診察や検査の質も高く、医療機関にかかりにくい地域の当会会員にはとてもありがたいサービスです。全員の健康維持に重要な巡回診療を会員たちは毎年心待ちにしております。

寺本浩二
アルジャ文化協会会長





会員課

会員課は1960年に設立され、経済的・社会的に援助が必要な方々への支援資金を集める活動を行っている。

2014年には、支援を必要とする人々に支援を提供するという同じ目的を掲げ、日伯福祉援護協会が設立された。

正会員、賛助会員及び全会員の貢献のおかげで、当協会は支援活動の拡大と広報を促進することができた。

対象

コミュニティの力を信じ、具体的な行動と支援を通じて、より公平な未来を築きたいと考えている人々で構成されている。

主な活動

会員課では、個人や法人を招いて随時新規会員募集キャンペーンを実施し、社会の推進を支援している。また、社会的プロジェクトの拡大を促進することで、ますます多くの人々に恩恵が行き渡るよう努めている。

スタッフ

会員課は、2人の職員で構成されている。

設備

サンパウロ州サンパウロ市リベルダーデ地区サンパウロ日伯援護協会本部に設置。



7月12日～14日に開催された第25回日本祭りに参加。2024年は、「生きがい - 目的を持って生きる」をテーマに、人生の意味とより良い世界に貢献することの重要性について考える機会となった。そして、この精神のもと、同部署は存在感を示し、より多くの人々が同団体の社会貢献プロジェクトに貢献し、困っている人々の生活を変えられるよう、会員増強キャンペーンを推進。



11月22日、地区委員総会を開催。地区委員の皆様、理事会メンバーと職員が集った。園田昭憲会員課委員長と戸田マリオ副委員長が年間事業報告と高齢者養護施設に関する報告を行った。総会后、慰労昼食会を開催。

会員		
	2023 年	2024 年
50 歳未満	746	778
51 - 60 歳	619	616
61 - 70 歳	890	855
71 - 80 歳	1,631	1,452
81 - 90 歳	1,342	1,055
91 - 100 歳	265	160
100 歳以上	2	4
法人と団体	59	57

地域ごとの地区委員		
	2023 年	2024 年
サンパウロ市	5	5
サンパウロ市近郊都市	21	21
サンパウロ州のその他の市	18	19
その他の州	1	1

会費の各施設への割り当て		
	2023 年	2024 年
サントス厚生ホーム	39%	35%
さくらホーム	12%	14%
あけぼのホーム	28%	31%
イペランジアホーム	21%	20%

1993年聖市サンマテウス地区より入会、第5代会長和井武・第6代酒井清一・第7代森ロイナシオ・第8代菊池義治・第9代与儀上原昭雄・第10代税田パウロ清七（現）下で地区委員、評議員としてお手伝いさせていただきました。数年後会員離れで毎年減少傾向も、最近は、福祉活動に関心のある会員が残り、新加入者も増えています。私事ではありますが、地区委員を引退いたしました。ですが、会員としては引き続き協力して行きたいと思います。役員の皆様、会員の皆様、関係者の皆様の御指導、ご鞭撻ありがとうございました。サンパウロ日伯援護協会の益々のご発展を祈念いたします。



日伯友好病院 (HNIPO)

日伯友好病院は1988年にブラジル日本移民80周年記念事業として、病床数30床、職員120人で開院された。

現在は一般病棟・集中治療室・心臓内科等・小児科、240床以上の床数に、手術センターには10の手術室を備えている。

対象

自費診療と医療保険診療に対応し、サンパウロ市の北部と東部地域やグアルーリョス市の住民が患者のほとんどである。

スタッフ

統合労働法に基づいた雇用契約の2千人以上の職員ほか、研修生及びの青少年就労支援プロジェクト(Jovem Aprendiz)を受け入れている。

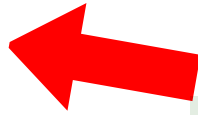
設備

トモグラフィーやMRI等の画像診断、生化学検査、血行動態検査、内視鏡検査などを提供し、精密な検査を基に診断・治療を施す。36以上の専門分野を提供している10軒の診療所（診察室は82室）も運営。

24時間体制救急外来・小児救急外来や整形外科・循環器科・産婦人科・整形外科の専門医を配置した外傷センターでの診療を提供。



HNiPO



1月1日より、日伯友好病院（HNiPO）は、現代で洗練されたデザインのロゴを使用。競合他社に対して強い力を持ち、ターゲット層に対するポジショニングをさらに明確にするために再デザインされました。新しいロゴは、Hの文字に十字架の要素を取り入れたカスタマイズされたレタリングを採用しており、その丸みを帯びた角は、HNiPOが周囲の人々と築く人間的なつながりを象徴しています。色使いは、現代的な方法で健康分野との関連性を示しています。新しいアイデンティティは、また、日本の敬意とブラジルのホスピタリティに基づくバランスを反映したトーン・オブ・ボイスを導入しており、そのためインパクトのあるフレーズ「私たちはあなたの信頼に感謝します」を掲げています。



日伯友好病院 岡本セルジオ病院長が医療の品質・安全分野で、「ヘルスケア業界で最も影響力のある100人」として12月6日に表彰された。

性別		
	2023 年	2024 年
女性	472,641	490,395
男性	311,445	329,998
その他	30	23

国籍		
	2023 年	2024 年
ブラジル	768,536	809,158
日本	4,687	2,827
日系	7,402	5,178
その他	3,491	3,253

年齢層		
	2023 年	2024 年
0 - 6 歳	85,020	72,438
7 - 12 歳	40,422	44,691
13 - 21 歳	52,044	58,250
22 - 30 歳	81,214	84,773
31 - 40 歳	132,125	132,177
41 - 50 歳	140,610	153,225
51 - 60 歳	112,833	119,934
60歳以上	139,848	154,928

対応数	
手術件数	12,321
入院件数	19,502
診断治療支援サービス	2,371,818
出産件数	899
診療所 診療件数	320,902
成人・小児科 救急外来診療件数	293,736

病床数・診察室数	
病床数	242
成人集中治療病床数	41
新生児集中治療病床数	4
新生児集中治療病床数	10
手術室	10
救急外来診療室	82

認定証と品質向上プログラム
EPIMED社と提携
Qmentum認定
外傷患者ケア優良病院認定所得
ブラジル私立病院協会（ANAHP）
出生情報システム（SINASC）
医療安全管理体制検証（IBSP）
地域がん登記品質認定

10日以上、投薬による治療のための昏睡状態から目が覚めた時は、何が起きているのかわからず、体の左側も麻痺していました。リハビリリでは言われた運動をしっかりと行い、看護師さんたちにも丁寧に行き届いたお世話をさせていただきました。私の回復は病院の皆様のおかげです。本当に感謝しています。今は歩くことができるほど回復しました。思考もはっきりしつつあり、以前は後回しにしていた、したいことについても考えています。このことがあって、人生、したいことを諦めずに、頑張るということを気づかせてもらいました。

M. L. V - 入院患者（69日間入院）



2月23日に独立行政法人国際協力機構（JICA）と日伯友好病院開催の第7回日系病院連携協議会に、サンタクルス日本病院、アマゾンア病院、SBC病院、杉澤病院の代表者が参加。日伯友好病院ファビオ・ソウザ マーケティング・営業部長が進行役を務めた。Arquitetos da Saúdeコンサルティング会社のロペス・アドリアノ氏、Dr. Consulta 医療施設の柴田マサノリ・ジュニアも参加。



サンミゲル・ アルカンジヨ病院

サンミゲル・アルカンジヨ市に所在するサンミゲル・アルカンジヨ病院は2013年に開院。後に、市の救急センターも受け持った。

2015年5月には病院敷地内に救急診療所を開設。

2022年3月に療養病棟を開棟、2023年3月31日にブラジル保健省より長期療養患者受け入れが許可された。

対象

サンミゲル・アルカンジヨ病院は統一医療保険制度(SUS)対応の病院。

スタッフ

193人の職員が従事。

設備

入院患者のための42床を完備。救急診療、入院、低・中難易度の手術、検体検査、超音波検査、X線検査、心電図検査、呼吸療法の医療サービスを提供。長期に渡る療養が必要な患者のために、療養病棟に37床以上を完備している。



9月20日と27日に「イエローセプテMBER」活動の一環として、職員に向けて**自殺予防啓発イベントを開催**。LOB病院の職員Eloísaさん（精神科卒）と当病院の精神科医の岩崎パオラ先生が講演を行った。職員の多くが参加し、メンタルヘルスに関する認識の大切さが強化された。



10月は「ピンク・オクトーバー」活動として、10月22日に**乳がん予防啓発イベント**を開催し、職員に向けて早期発見や予防ケアについての啓発を行った。

性別		
	2023 年	2024 年
男性	29,374	30,495
女性	35,778	35,022

年齢層		
	2023 年	2024 年
0 a 9 歳	11,202	2,208
10 a 20 歳	6,671	9,605
21 a 30 歳	9,432	11,426
31 a 40 歳	8,821	9,657
41 a 50 歳	9,338	9,723
51 a 60 歳	7,442	8,799
60歳以上	12,246	14,099

対応数	
手術件数	454
入院件数	1,389
各種検査件数	2,629
出産件数	9
救急外来件数	63,628

2024年4月19日、息子が救急診療を受診し、大変お世話になりました。特に看護師のファビアナさんはとても親切で細心の注意を払って対応してくれました。ファビアナさんと病院のスタッフの皆さんに神の御保護がありますように。

匿名



LOB病院 (イタペチニンガ)

レオ・オルシ・ベルナルデス病院（LOB病院）は1888年4月29日に設立され、イタペティニンガ（SP）の市内中心部に位置している。2022年7月1日より、サンパウロ日伯援護協会（援協）による運営が開始され、同年11月11日、援協は今後5年間の運営契約を落札し、病院経営の強化を行った。

対象

すべての統一保健医療システム（SUS）の患者に平等なケアを提供している。

チーム構成

LOB病院には現在850人の医療従事者が在籍しており、さまざまな分野のチームで構成されている。

設備

LOB病院は194床を有し、イタペティニンガ保健地域の13の市に対して、100% SUSによる医療サービスを提供している。病院内には、内科、外科、小児科、産科のクリニックをはじめ、大人用ICU（集中治療室）や保育室、救急室、画像診断および臨床検査が完備されている。さらに、高度な集中治療を要する患者に対応が可能で、低度から中度までの複雑性整形外科サービスも提供している。



6月25日に、泌尿器科内科手術キャンペーンを開催。これは、尿路疾患を治療する低侵襲手術であり、泌尿器科医のエドゥアルド・ラレヂ医師のもと、この分野における待機リストを削減させた。



9月16日に開催されたサンカエターノ・ド・ソール大学 (USCS) の医学部の初回授業には、同大学学長オリバ・フェルナンド医師、シモーネ・マルケット連邦下院議員、森エリオLOB病院運営委員会会長、指導教員、学部の新入生が参加した。

性別		
	2023年	2024年
男性	83,377	112,442
女性	105,567	146,553
その他	-	2

年齢層		
	2023年	2024年
0 - 6 歳	23,662	28,044
7 - 12 歳	10,164	14,882
13 - 21 歳	23,551	35,224
22 - 30 歳	34,334	48,301
31 - 40 歳	28,253	38,149
41 - 50 歳	23,493	32,898
51 - 60 歳	17,619	25,065
60 歳以上	27,868	36,434

実績	
一般病床	176
一般集中治療室病床数	18
手術室	4
手術件数	3,669
入院件数	10,435
臨床検査・画像検査数	757,094

「私と妻に素晴らしいケアを提供してくれたこの病院のスタッフ全員に、心から感謝しています。

人間性、プロ意識、他者に対する慈善心をもって。

素晴らしい医師、素晴らしい看護師、そして適切で清潔なシステム。神のご加護を。」

J.E.R.O.



リベルダーデ 医療診断センター

リベルダーデ医療診断センター（CMD）は、1962年4月28日に日本移民援護協会（現在・サンパウロ日伯援護協会・援協）の医療支援事業として活動を開始した。当時、この事業は医療支援、衛生、健康部門と呼ばれ、医療診療所に設置され、必要とする人たちに無料または低額で診療を行っていた。

対象

診察および検査を希望する全ての方々

チーム構成

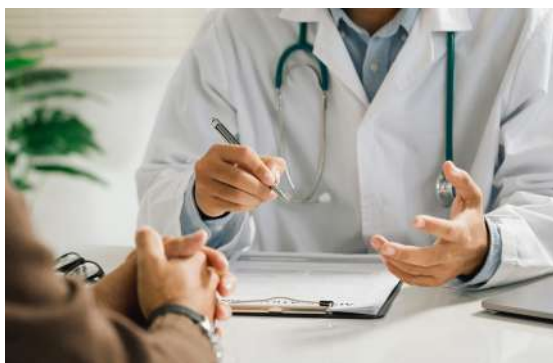
約88名の専門医と50名以上の看護師、薬剤師、事務員とサポートスタッフが在籍している。

設備

診療室や処置室に加え、理学療法、鍼治療、歯科治療のための専用エリアを完備している。さらに、臨床検査、断層撮影、内視鏡検査、大腸内視鏡検査、骨密度測定などの画像検査も実施している。

人間ドック

患者のニーズに合わせて、エクゼクティブ・レディース40+、スタンダード・スポーツ・心臓・エコノミー・高齢者など、様々なコースを提供。一日で全ての検査が受けられるよう調整されている。



患者への対応を改善とより良い治療を施すため、7月よりPACS（ピクチャー・アーカイビング・アンド・コミュニケーション・システム）を導入。このシステムにより、**医療用画像をデジタルデータとして保管・管理・共有が可能**となった。



5月13日、14日、17日に、第一回医療診断センター**看護週間**を開催し、当センターの全従事者が参加した。

クイックマッサージ、オンライン瞑想、さらに色々な講義があり、その中には、トレーニング&DH0および選考コーディネーターのフラヴィア・オリヴェイラ氏による「職業的成功を達成するためのツールとしてのキャリアの主人公性」などの講義が行われた。

性別		
	2023年	2024年
男性	22,422	21,901
女性	41,385	39,404

年代別		
	2023年	2024年
0 - 10 歳	1,547	1,118
11 - 20 歳	2,076	1,685
21 - 30 歳	3,413	3,310
31 - 40 歳	5,436	5,328
41 - 50 歳	7,453	7,040
51 - 60 歳	9,338	8,684
60 歳以上	34,544	34,140

国籍		
	2023年	2024年
ブラジル	40,568	44,643
日本	9,158	7,555
日系	13,115	8,433
その他	966	674

受付件数	
診察	39,135
検査	132,123
リハビリ	6,577
歯科	4,509

「素晴らしく、とても整備されており、真摯に対応してくれます。手軽で効率的です。チームの皆様、素晴らしいお仕事に敬意を表します。ありがとうございます。」



日伯友好病院福祉部

HNIPO

1994年に、Nossa Sra. Aparecida da Boa Viagem教会の支援のもと、経済的に恵まれていない家庭へ、同教会内にて無料医療支援を開始。2008年には、新しい設備を得て、子供たちへの歯科治療サービスを提供。

2012年には、サンパウロ市保健局とSUS（統一医療保険制度）提携を交わした（2021年8月に更新）。

対象

パルケ・ノーボ・ムンド地区周辺在住の12歳11か月までの児童へ医療サービスを提供。家族も社会教育活動に参加。

主な活動

経済的に恵まれていない地域住民向けに保健・教育・福祉サポートを提供。妊婦サポートグループ活動や虫歯予防講演会、女性の健康・事故防止・環境保存等の討論会、食料品配布を行っている。

スタッフ

社会福祉士、小児科医師、社会福祉研修生、歯科医、他。

設備

診察室、歯科治療室、看護室、社会福祉室/事務室、相談室、レクリエーション室、他。



2月に本の寄付キャンペーンを呼びかけ、250冊の児童書・漫画本(gibi)が寄付された。福祉部に来ている児童達が読書の習慣を持つようにと診察待合室にGibiteca を設置。



10月に日伯友好病院職員におもちゃ寄付を呼びかけ、ほとんどが新品の732個のおもちゃが寄付された。病院が購入したお菓子セットと共に12月のクリスマスイベントで児童達へプレゼント。集まったおもちゃの数が多かったので、PIPAの児童達へもプレゼントできた。

日伯友好病院での診察・検査・歯科治療

	2023年	2024年
診察	3,367	2,878
検査	11,243	10,679
医薬品投与	2,428	1,820
歯科治療	4,827	5,037

サンパウロ市保健局への検査提供

	2023年	2024年
検査提供数	9,269	8,386
検査実施数	5,818	5,053

受付内容

健康予防活動	1,438
病気予防	12,389
援助	941
社会教育イベント	3,082

私と子供達は何年も前から、歯科医、小児科医、講座、講演会、グループ活動に参加し、お世話になっています。福祉部は私の家族を含め、多くの家族をサポートしています。本当にとても感謝しています。

オリヴェイラ・ハケウ（子供達は福祉部の支援を受けている）



自閉症児療育施設

PIPA

2006年4月1日中央寺院日教寺内にて、Projeto de Integração Pró-Autista（自閉症児療育学級-青空学級）が開設された。

2010年にサンパウロ日伯援護協会が手配したパルケ・ノーヴォ・ムンド地区の建物へ引っ越しした。

2014年にはサンパウロ州厚生局の条件を満たし、正式に医療施設としての運営を開始し、SUS統一保健医療システムとも提携。2022年には新本部が建設され、受け入れ人数も増やせ、保健会社経由での入所も受け付けるようになった。

対象

自閉スペクトラム症と診断された子供たち（入所年齢：3歳から9歳11か月）を対象としている。療育期間は各自閉症児の特性と必要性によるが、18歳まで療育を受けられる。

主な活動

日常生活療法（TVD）の主な活動として、運動機能の向上や認知活性化療法と音楽・技術感性向上を実施している。また、日常生活への自律性の向上も日常生活療法（TVD）の指針である。生徒達の将来を見据えて、労働市場で必要なスキル・社会的適応の会得のために作業療法も取り入れている。

スタッフ

精神科医、理学療法士、作業療法士、言語療法士、看護師、音楽指導員、児童指導員、他。

設備

レクリエーション（活動）室、看護室、多目的室、音楽室、メディア室、体育室、食堂、厨房、更衣室を完備。



2024年2月に作業療法・職業訓練の一環として、シルクスクリーンでT-シャツプリント作業を開始。年間で3千着以上をCEBASP、LEGO、レストラン O Brasileiro、EXAL と日伯友好病院の注文を受けて制作した。



4月7日にClube Penhaと共同で、「自閉症啓発デー」ウォーキングに参加。このイベントにより、自閉症についてより多くの人に知ってもらい、偏見をなくし、一社会人として認めてもらうことを目的とする。イベントの終盤では、PIPA児童による音楽発表が行われた。

国籍		
	2023年	2024年
ブラジル	44	49
日本	8	7
その他	3	3

年齢		
	2023年	2024年
5 - 7 歳	8	6
8 - 10 歳	8	8
11 - 13 歳	18	16
14 - 17 歳	21	29

利用期間		
	2023年	2024年
1年未満	12	8
1 - 2 年	3	11
3 - 4 年	9	1
5年以上	31	39

私の息子のGui lhermeは約8年間、PIPAでTVD治療を受けています。この期間に、自分で着替えができるようになり、偏食も治りました。食器洗い、洗濯物の片づけ、自分の持ち物の整理整頓、軽食やジュースの準備、レストランやパーク、旅行など大勢の人がいるところで落ち着いて行動できるようになりました。嬉しいことに、息子は本当にPIPAが大好きです。皆さんはやさしく、尊重し、愛情を持って接してくれます。PIPAの活動は他に例を見ませんが、PIPAのような所ではありませんでした。本当に感謝しています。アンドレア・ペレイラ・ハイス - ギリエルメ・ソアレス・ダ・シウヴァ・ハイスの母親







運営概況

サンパウロ日伯 援護協会

2023-2025 評議員会 紹介

氏名	役職
与儀 昭雄	会長
早川 量通	第一副会長
坂和 三郎	第二副会長
川合 昭	第一書記
根塚 弘	第二書記
菊地 義治	
大原 毅	
尾崎 アデリーナ	
塩野 彰	
三浦 エジソン ミツオ	
大西 悦雄	
柴垣 はるみ	
川添 博	
伊澤 一高	
高松 玖枝	
安次富 ジョージ	
大沼 潤	
大野 恵介	
林 まどか	
本橋 幹久	
松村 シゲキ	
小島 美紀	
岩原 ミルトン勝弘	
原田 実	
安藤 光明	
千葉 直義	
松尾 治	
尾西 貞夫	
松田 清喜	
松本 茂	
斉藤 伸一	
辻 シルビア	
八尋 敏幸	

正評議員



サンパウロ日伯援護協会

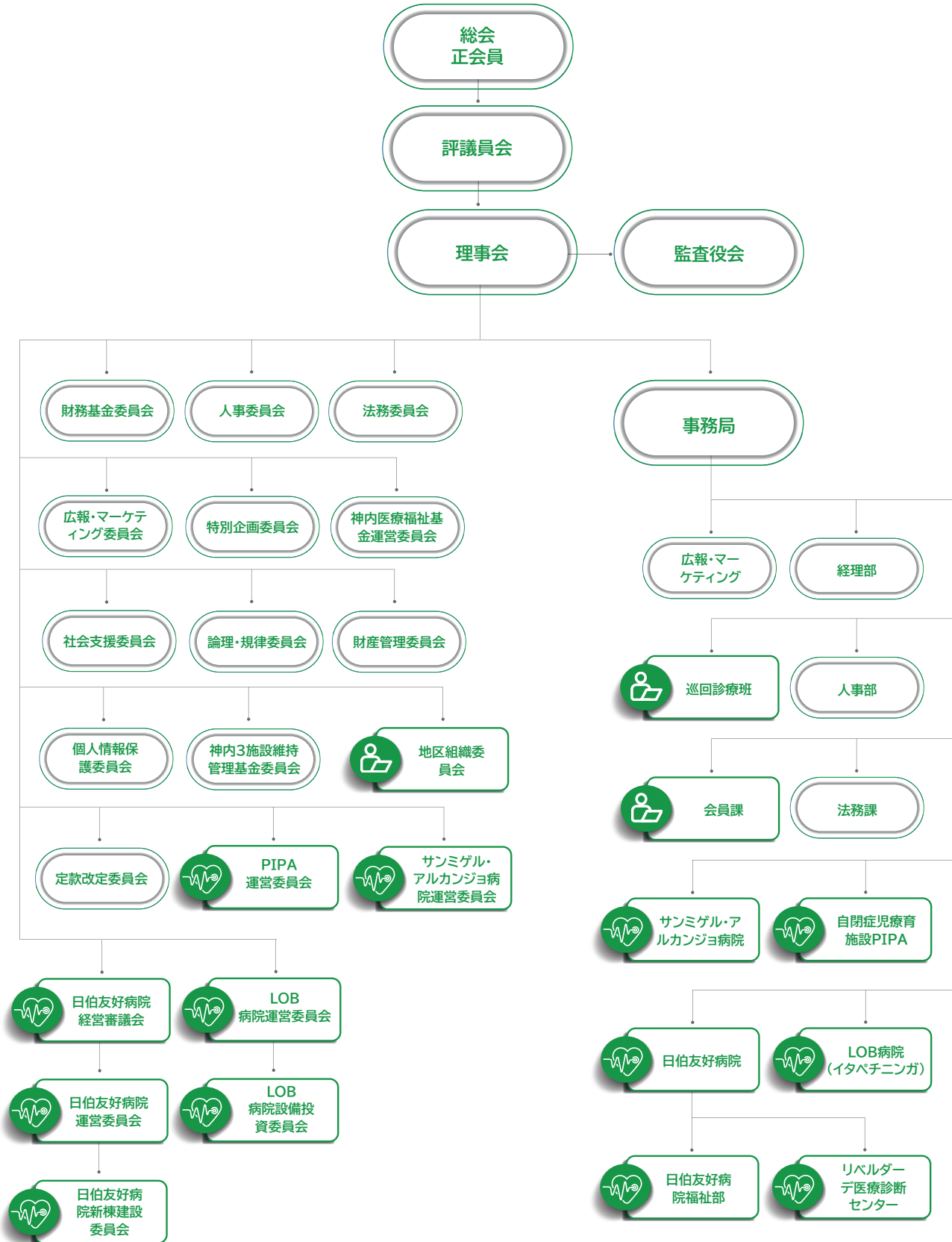
2023-2024 理事・監査役 紹介



氏名	役職
税田 パウロ 清七	会長
洲崎 順	第一副会長
園田 昭憲	第二副会長
佐々木 ヴァウテル タケオ	第三副会長
島袋 栄喜	第四副会長
小田 セルジオ	第五副会長
市川 利雄	書記理事
森 エリオ 圭一	第一常任理事
玉田 エジソン ツヨシ	第二常任理事
土井 セルジオ 紀文	第三常任理事
樋口 英樹	第四常任理事
中田 和夫	第五常任理事
井上 健治	第六常任理事
戸田 マリオ	第七常任理事
西岡 ネウソン ススム	第八常任理事
鈴木 デシオ	第一会計理事
佐々木 弘一	第二会計理事
柴垣 暁宏	第三会計理事
伊藤 アゴスチンニョ イサオ	理事
吉田 エドアルド	理事
長喜 グロリア	理事
横山 ジュリオ タイカン	理事
安武 誠	理事
村上 パトリシア	理事
西川 修治	理事
アントニオ・ジョアキン・フィーリョ	正監査役
山口 正	正監査役
井上 茂則	正監査役



組織図





地区委員一覧

	地区	地区員名
1	アエロポルト	山本 恒夫
2	イタケーラ	半田 ジョアナ 信子
3	ノヴァ・カシヨ エイリヤ	成田 ヨシミチ
4	サン・マテウス	知念 直義
5	サンミゲル・パウ リスタ	長喜 グロリア ヒロミ

6	アルジャ	玉田 エジソン / 玉田 なおみ
7	アチバイア	アチバイア日伯文化教育協会
8		伴 湯原 和美
9	モジ ダス クルゼス	コクエラ農業協会
10	モジ・ダス・ クルーゼス	森 政雄
11		竹下 勝
12		伊藤 富士雄
13		本田 パウロ
14		長谷川 ヒロシ
15	モジ 中央日本人会	鈴木 タエ
16	モジ ピンドラマ	花岡 ジツオ
17	モジ・ダス・ クルーゼス (イタパチ)	檀 定則
18	サレゾポリス	大塚 茂樹
19	オザスコ	大瀧 多喜夫
20	ヒバイロン・ピレス	中野 ムツコ
21	サンタ・イザベル	藤島幸
22	サント・アンドレ	尾田 梅津 洋香

23	サン・ベルナルド	井上 ホベルト
24		三浦 ペドロ
25	スザノ	吉岡 ひろし
26		藤村 隆次
27	アリアンサ 1、3	全アリアンサ文協
28	カポン ボニト	カポン ボニト文化協会
29	カンピーナス	深沢 秀也
30		久保 要
31	カンポス・ド・ジョ ルドン	辻 雄三
32	グアタパラ	グアタパラ文化体育協会
33	イタパチニンガ	河上 園田 エメリ
34	ジャカレイ	佐々木 エジガル 敬
35	ミランドポリス	ミランドポリス文化協会
36	オウリンニョス	佐藤 マリア エレナ
37	ピラール・ ド・スール	奥田 ヘジナ
38	レジストロ	清水 タカシ
39	サントス	安次富 ジョージ
40	サンミゲル・ アルカンジョ	コロニア ピンニャール 文化体育協会
41	サント・アントニ オ・ド・ピンニ ャール	川上 アントニオ
42	ソロカバ	ソロカバ日伯文化体育協会
43	タピライ	松田 清喜
44	タトゥイ	井上 茂則
45	タウバテ	安藤 光明

46	リオ・デ・ジャネイロ	宇根 道子
----	------------	-------



運営に関する活動報告

1. 定期総会

2024年4月27日に第63回定期総会を対面オンラインにて開催、2023年度決算、2023年度事業、2024年度事業計画、2024年度予算を報告。

2. 評議員会

評議員会は年に2回開催される。第一回目は4月に開催され、理事会が提出する事業報告書、決算報告書等の議題の討議と承認を行う。第2回目は10月に開催され、理事会が提出する次年度事業計画及び予算案等の討議と承認を行う。

2024年4月27日に第26回定期評議員会を開催、2023年度決算報告及び2023年度事業報告の討議と承認を行った。

2024年10月26日に第27回定期評議員会を開催、2025年度事業計画及び2025年度予算案の討議と承認を行った。2025-2026年度理事会の選挙も行った。

3. 監査役会

監査役会の役割責任はサンパウロ日伯援護協会の全ての事業の監視、監督すること。監査役会は正監査役3名が2年間の任期で務める。

4. 理事会

理事会は25名の理事で構成、任期は2年間で、役割責任はサンパウロ日伯援護協会の統率し、運営を担うこと。

5. 専門委員会

専門委員会は幹部理事が委員長を務め、その分野の専門家や知識と経験豊富なボランティアたちが委員会メンバーとして参加している。委員会は事業が円滑に運営されるよう、幅広い視野で統括、管理を行っている。

各委員会の開催状況は以下の通り。

専門委員会	開催数	専門委員会	開催数
財務基金	2	個人情報保護	6
人事	1	自閉症児療育学級	13
法務	4	日伯友好病院経営委員会	50
広報	1	日伯友好病院経営審議会	12
地区組織	1	SMA病院運営委員会	12
特別企画	1	日伯友好病院新棟建設委員会	46
財産管理	1	LOB病院運営委員会	12
神内3施設維持管理	1	Investimento HLOB	4
神内医療福祉基金	1	定款改定	2
論理・規律	1	社会支援	11



専門委員会

2023 - 2024

委員会	委員長	委員長	委員	職員
財務基金	鈴木 デシオ	小田 セルジオ	税田 パウロ 清七、洲崎 順、園田 昭憲、佐々木 ヴァウテル、島袋 栄喜、佐々木 弘一、吉田 エドアルド、前園 マルセリーノ、尾崎 アデリーナ	仲丸 朗
人事	小田 セルジオ	洲崎 順	税田 パウロ 清七、園田 昭憲、佐々木 ヴァウテル、島袋 栄喜	前園 マルセリーノ
法務	村上 パトリシア	森 エリオ	税田 パウロ 清七、洲崎 順、小田 セルジオ、大原 毅、佐々木 ヴァウテル、前園 マルセリーノ、シェルヴェニン・エリザ、ダリオ・マリレネ	赤嶺 チエミ
広報	市川 利雄	洲崎 順	園田 昭憲、吉田 エドアルド、ソウザ・ファビオ、ポリニ・ガブリエラ、フランサ・ダイアナ	前園 マルセリーノ
地区組織	園田 昭憲	戸田 マリオ	早川 量通、知念 直義、井上 茂則、仲丸 朗、長喜 グロリア	鈴木 アドリアーノ
特別企画	小田 セルジオ	島袋 栄喜	洲崎 順、玉田 エジソン、中田 和夫、土井 セルジオ、樋口 英樹、長喜 グロリア	鈴木 アドリアーノ
財産管理	島袋 栄喜	鈴木 デシオ	佐々木 ヴァウテル、井上 健治、シェルヴェニン・エリザ、赤嶺 チエミ	鈴木 アドリアーノ
社会支援	佐々木 ヴァウテル	小田 セルジオ	税田 パウロ 清七、洲崎 順、島袋 栄喜、森 エリオ、前園 マルセリーノ、仲丸 朗、森 カシア、井貝 ミリアン、赤嶺 チエミ、上原 カルロス、藤川 マルセロ	シェルヴェニン・エリザ
神内医療福祉基金	税田 パウロ 清七	鈴木 デシオ	菊地 義治、与儀 昭雄、井上 健治、園田 昭憲、洲崎 順	前園 マルセリーノ
神内3施設維持管理	税田 パウロ 清七	鈴木 デシオ	菊地 義治、与儀 昭雄、井上 健治、園田 昭憲、洲崎 順、安武 誠、土井 セルジオ	前園 マルセリーノ
倫理・規律	小田 セルジオ	島袋 栄喜	税田 パウロ 清七、大原 毅、鈴木 アドリアーノ、シェルヴェニン・エリザ、ダリオ・マリレネ、赤嶺 チエミ	前園 マルセリーノ
自閉症療育療育施設-PIPA	井上 健治	島袋 栄喜	菊地 義治、根塚 弘、内村 俊一、佐々木 弘一、市川 利雄	松本 フェリッパ
日伯友好病院経営	洲崎 順	小田 セルジオ	税田 パウロ 清七、園田 昭憲、佐々木 ヴァウテル、島袋 栄喜、市川 利雄、鈴木 デシオ、岡本 セルジオ、赤嶺 マサヒコ、アウフィエリ・フェルナンド、前園 マルセリーノ	高野 マルコス
日伯友好病院経営審議会	税田 パウロ 清七	園田 昭憲	菊地 義治、与儀 昭雄、洲崎 順、佐々木 ヴァウテル、島袋 栄喜、小田 セルジオ、鈴木 デシオ、佐々木 弘一、市川 利雄、赤嶺 マサヒコ、岡本 セルジオ、アウフィエリ・フェルナンド、前園 マルセリーノ	高野 マルコス
SMA病院運営	森 エリオ	井上 茂則	税田 パウロ 清七、洲崎 順、園田 昭憲、佐々木 ヴァウテル、島袋 栄喜、小田 セルジオ、岡本 セルジオ、西川 修治、早川 量通、前園 マルセリーノ、アマリウド・シウヴァ、コダワラ カズオ、上原 カルロス	藤川 マルセロ
日伯友好病院新棟建設	税田 パウロ 清七	佐々木 ヴァウテル 岡本 セルジオ	与儀 昭雄、洲崎 順、園田 昭憲、小田 セルジオ、ソウザ・ファビオ、アウフィエリ・フェルナンド、柴垣 暁宏	タヴァレス・アリネ
LOB病院設備投資	森 エリオ	島袋 栄喜	洲崎 順、佐々木 ヴァウテル、小田 セルジオ、岡本 セルジオ、仲丸 朗、シェルヴェニン・エリザ、ペレイラ・ホザウド	前園 マルセリーノ
LOB病院運営	森 エリオ	島袋 栄喜	税田 パウロ 清七、洲崎 順、園田 昭憲、佐々木 ヴァウテル、小田 セルジオ、岡本 セルジオ、前園 マルセリーノ、ソアレス・ジャキソン、伊藤 イサオ、大井 ジョゴ、上野 ホベルト、西川 修治、上原 カルロス	ペレイラ・ホザウド
個人情報保護	村上 パトリシア	森 エリオ	税田 パウロ 清七、洲崎 順、園田 昭憲、佐々木 ヴァウテル、島袋 栄喜、小田 セルジオ、市川 利雄、岡本 セルジオ	赤嶺 チエミ
定款改定委員会	与儀 昭雄	税田 パウロ 清七	坂和 三郎、井上 健治、川合 昭、根塚 弘、洲崎 順、園田 昭憲、佐々木 ヴァウテル、島袋 栄喜、小田 セルジオ、大原 毅、村上 パトリシア、森 エリオ、エリザ・シェルヴェニン	赤嶺 チエミ



運営概況

施設幹部職員一覧

事務局

事務局長 前園 武弘 マルセリーノ	事務次長 鈴木 アドリアーノ	財務・人事部長 仲丸 ロベルト 朗	財務課長 中村 秋子	
主任弁護士 シェルヴェニン・ エリザ	管理係長 足立 アレシャンドレ	人事係長 山田 ヴィルマ	他 15	小計 22

日伯友好病院

院長 岡本 セルジオ	技術医師長 アウアイエリ・フェル ナウド	看護師長 カタラン・リアナ	財務・事務長 高野 マルコス	医師部長 テイシェイラ・ガブリエル, 上原 カルロス ヘジアナ・ナタリー
財務部長 シウヴァ・ウィリアン	人事部長 田中 徹	法務部長 ダリオ・マリレネ	薬局長 ファロ・カオリナ	
契約医師 1	臨床検査技師 1	看護師 207	准看護師 208	
看護助手 416	薬局職員 87	他 980	自由契約職員 2	小計 1.900

リベルダーデ医療診断センター

事務部長 イブライン・エライネ	医師長 コロイシ ジョージ	事務係長 ダマス・カチア	他 49	小計 51
--------------------	------------------	-----------------	---------	-------

日伯友好病院福祉部

福祉部長 井貝 ミリアン	契約医師 2	他 7		他 10
-----------------	-----------	--------	--	------

サンミゲル・アルカンジョ病院

事務長 フジカワ マルセロ	医師 ソアレス・ジャクソン	他 256	自由契約職員 1	小計 259
------------------	------------------	----------	-------------	--------

LOB病院（イタペチニンガ）

事務長 パレイラ・ホザウド	医師 ソアレス・ジャクソン	他 845		小計 847
------------------	------------------	----------	--	--------



2024年度決算報告



2025年度設備投資計画

部署・施設	事業内容	資金源	日伯友好病院
本部		予算 (R\$)	
	1. 建物外観の改修工事		3,500,000
	小計		3,500,000
巡回診療班	1. マイクロバスの滅菌器具、心電図機器、エアコンの購入		32,000
	小計		32,000
自閉症児療育施設-PIPA	1. 機器・教材の購入		32,000
	小計		32,000
イタペチニング病院	1. 設備投資 (改修工事)		2,426,000
	小計		2,426,000
日伯友好病院	1. 病院拡張工事 - 2年目		108,000,000
	2. 診療棟建設 - 1年目		15,500,000
	3. 改修工事		16,070,000
	4. 機器、設備品、用具等の購入		91,448,000
	5. IT部門の設備投資		4,100,000
	小計		235,118,000
	合計		241,108,000



2025年度予算

収入の部		支出の部	
		単位＝リアル	
1. 本部	25.232.000	1. 本部	25.232.000
会員会費	450.000	人件費	3.101.000
利子分	5.375.000	事務・管理費	3.569.000
寄付金	110.000	新規事業費	3.500.000
日伯友好病院より受入	19.297.000	日伯福祉援護協会への送金	15.062.000
2. 巡回診療	460.000	2. 巡回診療	460.000
寄付金	123.000	人件費	206.000
日伯友好病院より受入	337.000	事務・管理費	222.000
		新規事業費	32.000
3. 自閉症児療育施設	2.546.000	3. 自閉症児療育施設	2.546.000
SUS収入	677.000	人件費	1.334.000
民間保険診療費	667.000	管理運営費	1.180.000
利子分	64.000	新規事業費	32.000
イベント収入	103.000		
寄付金 - ブラジル三井物産財団	166.000		
日伯友好病院より受入	869.000		
4. サンミゲル・アルカンジョ病院	11.476.000	4. サンミゲル・アルカンジョ病院	11.476.000
市役所からの受入	4.284.000	人件費	4.062.000
長期入院費(UCP)	1.784.000	管理運営費	1.799.000
日伯友好病院より受入	5.408.000	外部委託費	2.252.000
		医療用品と医薬品	1.579.000
		長期入院費(UCP)	1.784.000
		新規事業費	0
5. サンミゲル・アルカンジョ救急診療所	14.537.000	5. サンミゲル・アルカンジョ救急診療所	14.537.000
市役所からの受入	6.426.000	人件費	6.092.000
日伯友好病院より受入	8.111.000	管理運営費	2.698.000
		外部委託費	3.378.000
		医療用品と医薬品	2.369.000
6. イタペチニンガ病院	106.396.000	6. イタペチニンガ病院	106.396.000
市役所からの受入	90.523.000	人件費	44.732.000
協力券			
日伯友好病院より受入	15.873.000	管理運営費	10.764.000
		外部委託費	28.794.000
		医療用品と医薬品	19.680.000
		新規事業費	2.426.000
7. 日伯友好病院	793.096.000	7. 日伯友好病院	793.096.000
		人件費・管理運営費	508.083.000
		新規事業費	235.118.000
		本部及び施設への送金	49.895.000
収入総合計	953.743.000	支出総合計	953.743.000



2025年度日伯友好病院総合予算

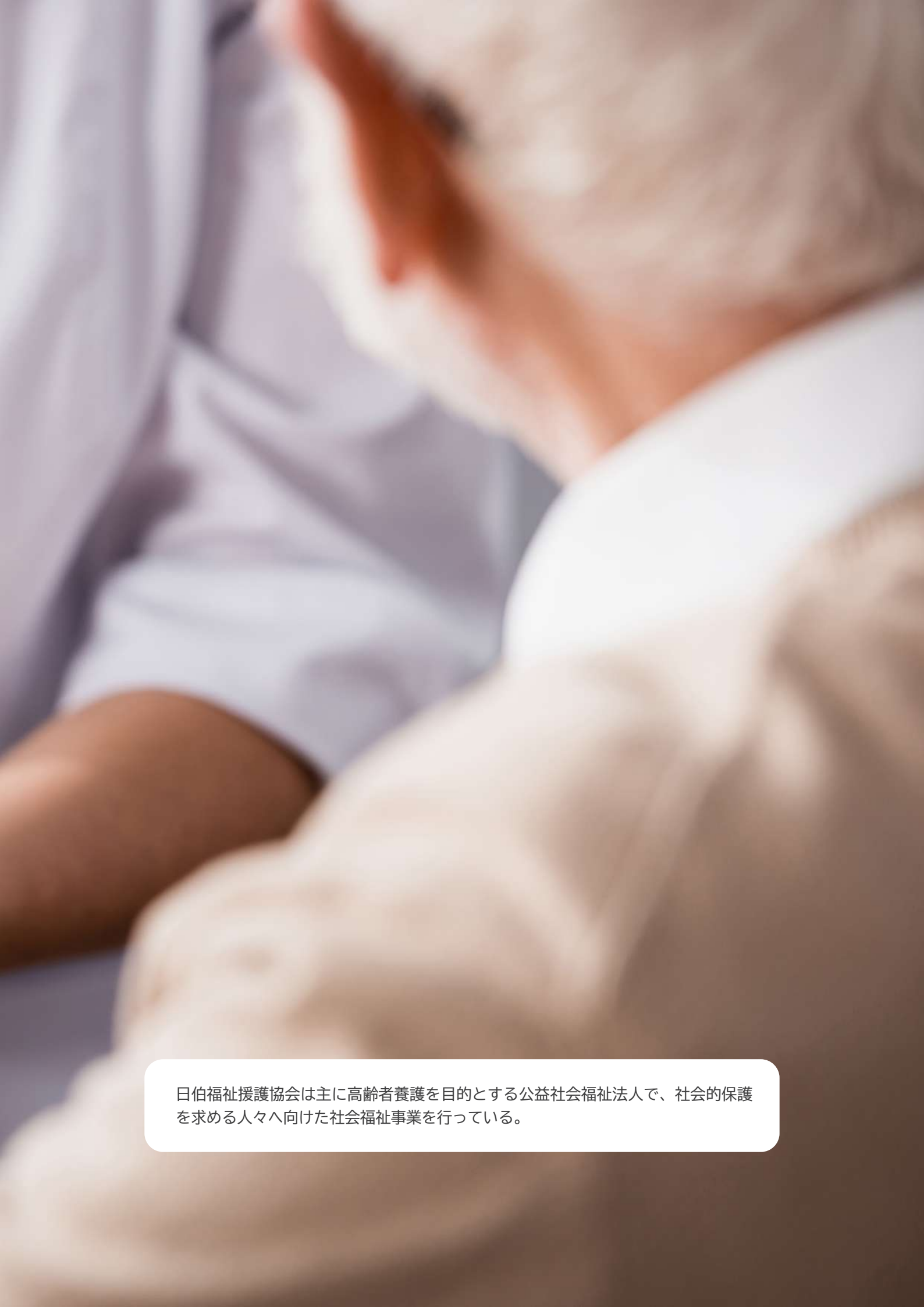
収入の部		支出の部		収支結果
項目		項目		
診察料	75.969.000	人件費	152.684.000	
検査料	63.830.000	管理・事務・光熱費等	48.363.000	
救急診療（一式）	80.083.000	管理/清掃費	27.076.000	
外科診療	68.646.000	食料購入費	7.768.000	
入院費	244.197.000	検査材料費	14.882.000	
諸経費（手数料等）	24.495.000	手術材料費	31.557.000	
未回収保険金	(4.282.000)	医薬品購入費	28.598.000	
		医療消耗品費	30.003.000	
		外部委託費	151.913.000	
（小計）	552.938.000	（小計）	492.844.000	60.094.000
リベルダーデ医療診断センター	14.543.000	リベルダーデ医療診断センター	13.747.000	796.000
友好病院福祉部		友好病院福祉部	1.492.000	(1.492.000)
（小計）	14.543.000	（小計）	15.239.000	(696.000)
本部より神内医療福祉基金の受入	773.000	新規事業費	235.118.000	



2025年度年間行事予定

日程	行事	場所
04/26	評議員会・総会	援協本部
06/14、15	高齢者無料健診	リバルダーデ医療診断センター
07/11、12、13	日本祭り	PIPA
10/04	高齢者無料健診	リバルダーデ医療診断センター
10/25	評議員会	援協本部
11月	地区員総会	援協本部
12/12	本部忘年会	援協本部





日伯福祉援護協会は主に高齢者養護を目的とする公益社会福祉法人で、社会的保護を求める人々へ向けた社会福祉事業を行っている。



福祉部

1959年1月28日の日本移民援護協会(現・サンパウロ日伯援護協会)設立と共に福祉部の活動を開始し、文化や言語の違い等で困っていたサントス港に到着した日本人移住者の支援を行う。移民や子孫の高齢化に従い、デイサービスセンターを設置し、高齢者への支援を行っている。

対象

援協福祉部を訪れる利用者の大半は高齢者で、日伯福祉援護協会傘下の高齢者養護施設への入居情報や、心身の健康を求めデイサービスセンターでの活動の情報についての問い合わせが多い。

主な活動

高齢者養護施設入居の相談と手続き、家庭環境・健康・金銭面相談受け、デイサービスセンターの管理、セミナー開催、ボランティア弁護士による一般向け相談受付、座談会も行っている。

スタッフ

社会福祉士、老年学専門家、事務員、サポートスタッフ。

設備

日伯福祉援護協会本部の3階に設置。受付、相談室、事務室、レクリエーションホールを完備。



5月25日には**社会福祉士の集い**を行い、課題を決めてそれぞれが所属する施設での現状について話し合った。日伯福祉援護協会傘下の高齢者養護施設の社会福祉士以外に、憩の園・こどもの園・希望の家・文協関係者が参加した。入居者の権利や社会福祉士としての経験交換などを目的とした。



11月27日に**第一回座談会**を開催し、いくつかのテーマに沿って、意見交換を行った。参加者が気負わずに自分の考えや経験を述べることで、議論された課題に対する幅広い理解を促進しつつ、お互いの絆を深めることもできた。

受け付け内容		
	2023年	2024年
ディサービスセンター援協	13,500	11,433
高齢者	5,500	5,796
経済相談	220	36
法律相談	120	81
健康相談	35	36
身体障害相談	265	160
中高年女性プロジェクト	15	15

資金援助内容		
	2023年	2024年
各種援助	450	285
長期入院	192	202
医薬品援助	224	39
医療援助	12	8

数年前、兄は統合失調症と診断された。治療を受けても、急に興奮状態に陥るなどの症状があった。

2010年に、ブラジルにはだれも親族がいなかった兄を唯一手を差し伸べてくれたのが援協で、外部高齢者養護施設への入居を手配してくれ、的確な治療を受けることができた。

おかげで、現在は専門家による治療を受けながら、症状も落ち着いて、ゆったり生活できている。

三池セリア・ハルミ (Estância Cantareira入居者の三池アウベルトの妹)



デイサービスセンター 援協

2010年に開始された「共存サービスと繋がり強化ーデイサービスセンター援協」は、援協一日伯福祉援護協会福祉部によって運営されている。

高齢者の社会活動を促進し、自主性・自立性を高めることを目的としている。そのため、さまざまな身体活動、認知活動及び工芸活動を無料で提供している。

対象

60歳以上、男女、国籍問わず。中高年女性プロジェクトの場合、年齢は45歳から59歳までの女性を対象とした活動を行っている。

主な活動

社会福祉部では、グループでの運動、認知活動、手作業、活力を高める活動、高齢者に関連するセミナー、社会活動と経験交換を促進するための料理教室など、心身の健康を促進するためのさまざまな活動を提供している。

スタッフ

社会福祉士、老年学専門家、補助員、インストラクター、受付でチーム構成されている。

設備

高齢者の方々が安心して利用できるよう、受付、技術チーム、活動室、図書室などの環境設備が用意されている。



NGO（非政府組織）「Grito do Excluídos Continental」と提携し、9月2日と9月6日に2つの新しいスマートフォン活動グループを開設し、当施設の高齢者約40名にサービスを提供した。このパートナーシップは、Ecoar 60+ プロジェクトによるデジタル活用支援と高齢者の権利に関する指導のために行われた。



利用者の要望をより良く理解し把握するために、9月9日にサンパウロ大学の老年学インターンと共同で「CCI Enkya評価プロジェクト」を開始した。それにより、利用者達の社会的、認知的、および身体的側面における需要を特定することができた。その結果として、利用者への適切な活動内容を提供することが可能。

国籍		
	2023 年	2024 年
ブラジル人	40	42
日本人	70	59
日系	219	235
その他	10	8

年齢		
	2023 年	2024 年
45 - 59 歳	-	1
60 - 69 歳	71	67
70 - 79 歳	168	188
80 - 89 歳	96	86
90 - 99 歳	4	2

ユーチューブチャンネル配信の再生回数	
折り紙教室	4,407
料理教室	2,666
講習会	3,538

「2023年は大変な年でした。私の父が亡くなり、仕事を辞めて、転倒し膝を骨折しました。そうした出来事もあり、2024年には、何かできることを探しに行きました。そんなとき、援協を勧められて、YURAIに入りました。大歓迎され、友達グループを作ることができました。皆と一緒にランチを食べたり、コーヒーを飲んだり、カラオケに行ったり、旅行へ行ったり…とても楽しかったです！皆同じ人生の目的を持っています。それは「幸せになること」です。…援協福祉部に心から感謝しています。」

イシハラ・N・N・エリザベッテ
 デイサービスセンター利用者



サントス厚生 ホーム

1971年にリベルダーデ地区に社会復帰施設として設立され、設立目的は、生活に困窮していた移民に援助を提供するためであった。1974年には、サントス市で廃墟になったサントス移民の家に移転し、社会復帰支援施設として、活動開始した。2013年1月31日に、施設の名称は「サントス厚生ホーム」に名を改めた。

対象

60歳以上の高齢者、性別を問わず、日常生活において自立している方。

主な活動

ホームでは、定期的なイベントや重要なお祝い行事など、入居者の身体的、精神的、社会的健康を促進するための幅広い活動を提供している。活動内容には、ミニ映画鑑賞、カラオケ、音楽療法と合唱、ラジオ体操、ディナー及びスペシャルランチ等がある。

スタッフ

社会福祉士、看護チーム、介護士、理学療法士、栄養士、老年医学医師などで構成されている。

設備

施設は17室のトイレ付部屋と15室の追加部屋、理学療法室、医師室、社会福祉士室、美容室、イベントホール、レストラン、テレビ室、日光浴スペース、図書館などがあり、他にも入居者に寄り添ったサポートを行うための設備が用意されている。



6月23日、施設は、伝統的な行事である**慈善フェイジョアード**が復活し、およそ300人が集まった。美味しい食事と共に、イベントでは、ビンゴが行われ、色々な景品が贈られた。お祝い行事であるだけでなく、ホームの資金集めも目的としており、「入居者の生活の質を向上させ、充実した生活を送れる環境を作る」という施設の使命を果たすものである。



ホーム入居者は5月1日、サントス日本人会がSESIサントスで開催したイベント「**サントス運動会**」を楽しんだ。入居者等は、楽しむだけでなく、スクラッチ販売を行い、厚生ホームへの資金調達にも貢献した。

国籍		
	2023 年	2024 年
ブラジル人	27	33
日本人	28	19
帰化人/ その他	-	2

入居者数 / 職員数		
	2023 年	2024 年
入居者	55	54
職員数	56	55

入居者の平均年齢及び平均入居期間		
	2023 年	2024 年
平均年齢	89	87
平均入居期間	6	4

施設で行われている主な活動内容	
ラジオ体操	37
理学療法	36
カラオケ	26

20年前から、私と夫は、老人ホームに入居者したいと話していました。息子達は、仕事があるため、彼らに迷惑をかけたくはありませんでした。私が未亡人になったとき、長男は、一緒に暮らすかもしくは、介護士と一緒に暮らして欲しいと言っていました。私はそうしたくはありませんでした。養護施設は、落ち着いている場所、看護師もいて、全てにおいて素晴らしいです。今は、息子も理解してくれました。いつも息子達に言うことは：第一に自分たちの人生を考えて、ママは、厚生ホームで快適に過ごしているから。今は、120%満足です。私は、ここにいられることを毎日感謝しています。

ガラン・ツツコ、92歳、
厚生ホーム入居者。



さくら ホーム

さくらホームの歴史は、1930年代にブラジルの日本移民の間で結核が蔓延したときまで遡る。医学の進歩と件数の減少により、当時は、サンフランシスコ・シャヴィエル療養所と呼ばれていたこの施設は、老人ホームへと改築され、ハカント・デ・ヘポウゾ・サクラ・ホームと名付けられた。

2024年に高齢者施設として確立し、名称を「サクラ・ホーム・ヘジデシアル・セニョール」に変更し、高齢者のケアと健康に対する取り組みを再確認した。

対象

性別を問わず、60歳以上で日常生活において自立している方。

主な活動

ホームでは、創作活動、記憶ゲーム、ピラティス、料理セラピー、文化イベントへの参加などを含めた様々な身体的、社会的、認知的活動を提供します。また、サポートと個別ケアおよびグループでのケアを入居者の社会性を維持するために実施している。

スタッフ

社会福祉士、看護チーム、理学療法士、栄養士、老年学専門家などで構成されている。

設備

2024年には、施設は収容能力を拡大し、快適性やプライバシーの向上のため、トイレ付部屋およびダブル部屋を合計39室増築。更に、最新キッチン、広いレストラン、日光浴スペース、理学療法室などの新しい施設の建設を行った。



11月20日、入居者達は、カンパス・ド・ジョルドンに新しくオープンしたCARDE美術館を訪問した。展示スペースには、車輪、芸術作品および視聴覚資料が展示されたスペースがあった。ホーム入居者達は、ランチを頂き、アートをその日思う存分楽しんだ。



11月7日、当施設はDoutores da Alegria (医師とピエロの姿をしたグループ) の訪問を受けた。入居者達は、グループが用意した遊びや、芸を楽しんだ。

国籍		
	2023 年	2024 年
ブラジル人	10	17
日本人	7	7
帰化人/ その他	-	1

入居者数/職員数		
	2023 年	2024 年
入居者	17	25
職員	39	35

入居者の平均年齢および平均入居期間		
	2023 年	2024 年
平均年齢	81	86
入居期間	7	7

主な活動	
ラジオ体操	8
ゲーム	8
認知活動	6

「 さくらでは、とても丁寧にお世話をさせていただいています。職員の方々は、凄く気配りができ、明るく、私は理学療法の活動がとても好きです。桜公園を看護チームと一緒に散歩するのも、とても素晴らしいです。

コガチ・ジョージ・サダヤス、84歳、
さくらホーム入居者



イペランジア ホーム

日系社会の高齢化に従う高齢者施設不足を補うため、1982年に内谷夫妻にご寄付頂いた土地に建設、1983年に開設。2021年に財団法人日本財団の助成金を基に全面改築工事を行い、2022年に工事が完了。更に同団体の助成金で増築工事が可能となり、2017年に開所式を行った。

対象

性別を問わず、日常生活においての自立度が高い60歳以上の方。

主な活動

居心地の良いホーム内で、健康促進のための運動や文化活動をJICAボランティアのサポート

スタッフ

社会福祉士、看護チーム、理学療法士、栄養士、老年学専門家が在籍。

設備

トイレ付部屋30室（個室14室、2人部屋16室）、理学療法室、診察室、社会福祉士室、食堂、テレビ室、図書室、ナースステーション等を完備。



01月28日にスザノ市スポーツ局のアルナウド・マリン局長、ブラジルゲートボール協会とスザノ文化協会の代表者を招待し、**ゲートボール場の開所式**を行った。ゲートボールのやり方の紹介を行った。現在はスザノ文化協会ゲートボール部の渡辺タダシさんの指導の下(もと)、毎週木曜日にホーム入居者がゲームを楽しんでいる。



2024年には新たに**Lian Gong**と**音楽セラピー**の二つの活動を導入した。Lian Gong運動は月2回行われ、身体的運動とリラックス効果、音楽セラピーは精神的なリラックス効果が得られる。

国籍		
	2023 年	2024 年
ブラジル	9	12
日本	18	18
帰化/ その他	2	2

入居者数/職員数		
	2023 年	2024 年
入居者数	29	32
職員数	44	44

入居者の平均年齢および平均入居期間		
	2023 年	2024 年
入居者の平均年齢	89	88
平均入居期間 (年)	3	3

主な活動	
ラジオ体操	30
Lian Gong	30
体操(DVD)	20

数年前、何回か気絶したことがあり、親族に一人暮らしをするには危険だと判断されました。

数年間ホームに住んでいますが、色々な活動に参加でき、とても有意義に過ごせています。血栓症による足の痛みもリハビリを行うことで改善されました。

ホームでは一度も無下に扱われたり、尊重されなかったことはなく、皆さんにとても良くしてもらっています。本当にここで暮らすのが大好きです。

パレス・サチコ・サトウ
入居者 - 91歳



あけぼの ホーム

あけぼのホームは、国際協力機構JICAの支援により2000年に設立。日伯福祉援護協会の傘下であり、利便性の高いグアルーリョス市に位置している。当施設では、日常生活に介助を必要とする高齢者への専門的なケアの提供を行っている。

対象

日常生活のサポートを必要とする性別を問わず60歳以上の高齢者。

主な活動

健康、幸福、生活の質の向上を目標として、入居者一人ひとりに合わせた運動、認知活動、社会活動を提供を行っている。これらの活動内容には、日常に適した運動から治療グループまた、文化イベントまでが含まれ、社会化を推進し、常に頭と身体を刺激することを目的としている。

スタッフ

社会福祉士、看護師、理学療法士、言語聴覚士、老年学専門家、栄養士、作業療法士等が在籍。

設備

2つの棟に分かれており、トイレ付部屋9室（各トイレ付部屋に3名まで収容可能）、15室（各部屋に2名の高齢者）、アクティビティルームおよびレクリエーションルーム、グルメスペース、会議室、テレビ付きホールなど、入居者が快適な生活を送れるように設計されている。



6月29日にホームは、初めて**オープンフェスタジュニア**を入居者のご家族が参加可能な形で開催した。このイベントは、様々なゲームや、伝統的な食べ物、ビンゴに加えて、伝統的なスクエアダンスの披露などがされた。



五輪をイメージした、「**あけぼのオリンピック競技大会**」がホームにて、7月から8月にかけて開催された。実施された競技には、バレーボール、アーチェリー、スケートボードなどのあらゆる好みに合わせたスポーツが実施された。また、このイベントでは、聖火リレーを含む伝統的な開会式が行われ、閉会式では、選手への表彰式が行われた。

国籍		
	2023年	2024年
ブラジル人	20	29
日本人	16	27
帰化人/ その他	1	1

入居者数/職員数		
	2023年	2024年
入居者	37	57
職員	82	82

入居者の平均年齢および平均入居期間		
	2023年	2024年
平均年齢	89	90
入居期間	5	5

主な活動	
理学療法	57
体操	50
音楽グループ	35

あけぼのホームでは、看護スタッフと介護スタッフの配慮と並外れた献身に加え、入居者の方は、老年専門医、理学療法士、言語療法士、JICAボランティアなどの専門家からサポートを受けています。私があけぼのを選んだのは、母が施設に5年間入居したときのケアが理由となっています。私たち家族、そして母は、ここを選んだことにとっても満足しています。他にも注目すべきところは、清掃、メンテナンス、ランドリー、調理の各チームを構成する人達の配慮や献身です。

野村サチコ、75歳、
あけぼの入居者







運営概況

日伯福祉援護協会

2023-2025 評議員会 紹介

氏名	役職
与儀 昭雄	会長
井上 健治	副会長
早川 量通	書記
菊地 義治	
川合 昭	
塩野 彰	
三浦 エジソン ミツオ	
根塚 弘	
与座 弘	
安次富 ジョージ	
岩原 勝弘 ミルトン	
安藤 光明	
知念 直義	評議員
坂和 三郎	
尾西 貞夫	
西川 修治	
内村 俊一	
大原 毅	
山上 雄司	
秋山 幸男	
新谷 幸雄	
石浜 譲	



日伯福祉援護協会

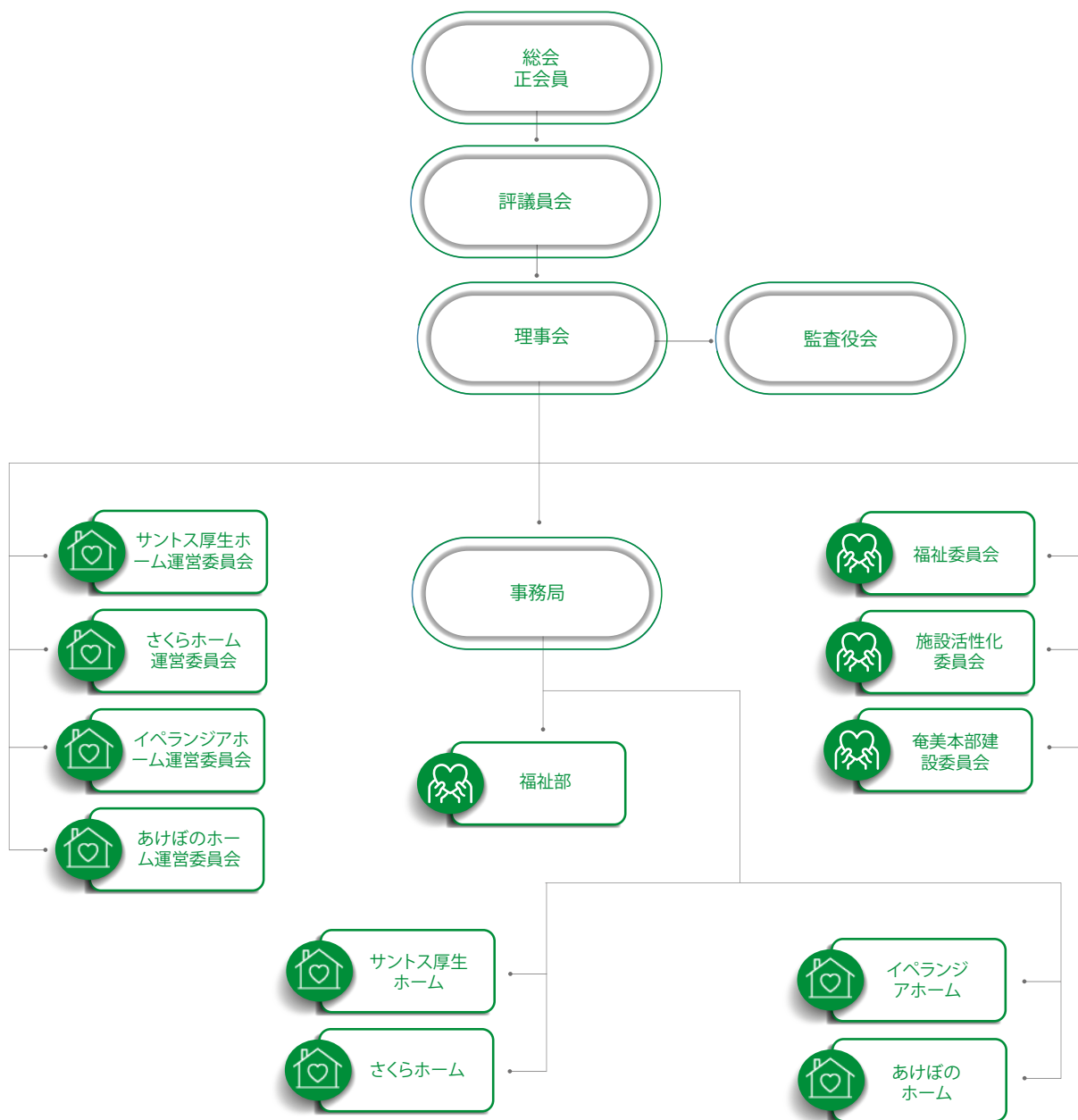
2023-2024 理事・監査役 紹介



氏名	役職
税田 パウロ 清七	会長
洲崎 順	第一副会長
園田 昭憲	第二副会長
島袋 栄喜	第一書記
小田 セルジオ	第二書記
鈴木 デシオ	第一会計
佐々木 弘一	第二会計
玉田 エジソン ツヨシ	
森 エリオ 圭一	
樋口 英樹	
中田 和夫	理事
戸田 マリオ	
土井 セルジオ 紀文	
市川 利雄	
佐々木 ヴァウテル タケオ	
山口 正	正監査役
安武 誠	



組織図





運営に関する活動報告

1. 定期総会

2024年4月27日に第9回定期総会を対面・オンラインにて開催。2023年度決算、2023年度事業、2024年度事業計画、2024年度予算を報告。

2. 評議員会

評議員会は年に2回開催される。第一回目は4月に開催され、理事会が提出する事業報告書、決算報告書等の議題の討議と承認を行う。第2回目は10月に開催され、理事会が提出する次年度事業計画及び予算案等の討議と承認を行う。

2024年4月27日に第20回定期評議員会を対面・オンラインにて開催、2023年度決算報告及び2023年度事業報告の討議と承認を行った。

2024年10月26日には第21回定期評議員会を対面式にて開催、2025年度事業計画及び2025年度予算案の討議と承認を行った。2025-2026年度理事会の選挙も行った。

3. 監査役会

監査役会の役割責任は日伯福祉援護協会の全ての事業の監視、監督すること。監査役会は正監査役3名が2年間の任期で務める。

4. 理事会

理事会は14名の理事で構成、任期は2年間で、役割責任は日伯福祉援護協会を統率し、運営を担うこと。会長、副会長2名、書記理事2名、会計理事2名と理事7名で構成されている。

5. 専門委員会

専門委員会は幹部理事が委員長を務め、その分野の専門家や知識と経験豊富なボランティアたちが委員会メンバーとして参加している。

各委員会の開催状況は以下の通り。

専門委員会	開催数	専門委員会	開催数
福祉委員会	1	厚生ホーム運営委員会	12
奄美本部建設委員会	1	さくらホーム運営委員会	12
施設活性化委員会	3	イペランジアホーム運営委員会	12
		あけぼのホーム運営委員会	12



専門委員会

2023 - 2024

委員会	委員長	副委員長	委員	職員
福祉	園田 昭憲	柴垣 暁宏	藤村 隆次、戸田 マリオ、根塚 弘、坂和 三郎、柴垣 ハルミ、小島 ミキ、鈴木 アドリアーノ、本田 イズミ	森 カシア
施設活性化	島袋 栄喜	洲崎 順	税田 パウロ 清七、園田 昭憲、佐々木 ヴァウテル、樋口 秀樹、玉田 エジソン、中田 和夫、土井 セルジオ、鈴木 アドリアーノ、仲丸 朗、エリザ・シェルヴェニン	前園 マルセリーノ
サントス厚生 ホーム	土井 セルジオ	西岡 ネウソン 安次富 ジョージ	照屋 譲二、吉田 秀一、吉田 幸王、羽山 ホベルト、照屋 桂子、松本 パウロ、土井 セリナ、有坂 隆良、上田 登志子、山口 マサユキ、小橋川 ジョルジ	北田 スエリ
さくらホーム	樋口 英樹	川上 アントニオ	辻 雄三、安藤 光明、新谷 幸雄、飯田 百合子、山本 マリナ、漆畑 オスカル、辻 アンジェラ、辻 シウヴィア、パウロ・ゴメス、与座 弘、吉田 タカヒコ、清原 ヴィトル	岩本 アレシャンドレ
イペランジア ホーム	中田 和夫	原田 実 岩原 ミウトン	藤村 隆次、安楽 光男、福島 満則、福島 達子、武吉 七郎、大路 幸宣、小島 ヴァウテル、三浦 エジソン、安楽 登、石橋 ジュリオ	三島 セルジオ
あけぼのホーム	玉田 エジソン	安武 誠	横山 ジュリオ、根塚 弘、内村 俊一、平野 アリセ、秋山 幸男	渋谷 ウィリン
奄美本部建設	島袋 栄喜	井上 健治	税田 パウロ 清七、与儀 昭雄、洲崎 順、園田 昭憲、佐々木 ヴァウテル、シェルヴェニン・エリザ、仲丸 朗	鈴木 アドリアーノ
イベ棟改修工事	税田 パウロ 清七	島袋 栄喜	中田 和夫、藤村 隆次、原田 実、岩原 ミウトン、三浦エジソン、安楽 登、安楽 光男、大路 幸宣、小島 ヴァウテル、石橋 ジュリオ、渡辺 タダシ、前園 マルセリーノ、鈴木 アドリアーノ	三島 セルジオ



運営概況

施設幹部職員一覧



福祉部

福祉部長 森 カシア	老年学専門家 桑名 クリスチナ	社会福祉士 カルヴァリョ・アナ	他 4	小計 7
---------------	--------------------	--------------------	--------	------



サントス厚生ホーム

施設長 北田 スエリ	医師 フレイタス・クラウジオ	看護師長 ペレイラ・マリナ	他 38	小計 44
社会福祉士 アルカリ・マルシア	理学療法士 ナシメント・ブルーナ	栄養士 コルテ・ジュリアナ		



さくらホーム

施設長 岩本 アレシャンドレ	医師 アヴァロネ・ウンベルト	看護師長 ソウザ・フェルナンド	他 19	小計 25
社会福祉士 マルチン・エジライネ	理学療法士 フェハイラ・バルバラ	栄養士 リズボア・パトリシア		



イパランジアホーム

施設長 三島 セルジオ	医師 花城 イヴァン	施設長 カルヴァリョ・メイレ	他 29	小計 35
社会福祉士 マルケス・エジナ	理学療法士 松本 イナシオ	栄養士 松永 フラビア		



あけぼのホーム

施設長 渋谷 ウィリアン	医師 平塚 マルセウ	看護師長 滝谷 スエリ	他 39	小計 35
社会福祉士 ロバス・ハケウ	理学療法士 シンクス・ジェアネ	理学療法士 玉本 カシア		
言語聴覚士 ナガト パトリシア	言語聴覚士 フィグレイド・エリザンジェラ	老年学専門家 金城 カミラ		



2024年度決算報告



2025年度設備投資計画

部署・施設	事業内容	予算 (R\$)	資金源
イペランジアホーム	1. イペエリアの改修工事 - 日本財団助成	2.262.000	日本財団
	2. イペエリアの改修工事 - (Enkyo負担分)	738.000	日伯友好病院
	3. 車両購入	150.000	日伯友好病院
	4. 家具、器具の購入	400.000	日伯友好病院
	5. 鯉池、職員休息室の活性化	106.000	野島基金
	小計	3.656.000	
サントス厚生ホーム	1. 車両購入	150.000	日伯友好病院
	2. 家具、器具の購入 (ソファ、寝室、図書室)	253.000	日伯友好病院
	3. 業務オープン、食器洗浄機の購入	226.000	日伯友好病院
	小計	629.000	
さくらホーム	1. 桜庭園のメンテナンス2024	928.000	さくら祭り
	2. 桜庭園のメンテナンス	1.364.000	さくら祭り
	3. 車両購入	150.000	日伯友好病院
	4. 家具・機器の購入	187.000	日伯友好病院
	小計	2.629.000	
あけぼのホーム	1. 車両購入	150.000	日伯友好病院
	小計	150.000	
奄美デイサービスセンター	1. 奄美本部建設/デイサービスセンター	4.000.000	日伯友好病院
	小計	4.000.000	
合計		11.064.000	



2025年度年間行事予定

日程	行事	場所
03/05	カーニバル	援協福祉部
03/01、02、08、09	ダリア祭り	イペランジアホーム
3月	秋祭り	サントス厚生ホーム
4月	金星クラブ夕食会	サントス厚生ホーム
04/26	評議員会・総会	援協本部
04/26、27	ピニョン祭り	さくらホーム
05/16	運動会	援協福祉部
6月	慈善フェイジョアード	サントス厚生ホーム
06/16	フェスタ・ジュニーナ	援協福祉部
07/19、20、26、27 08/02、03、09、10	さくら祭り	さくらホーム
9月	金星クラブ夕食会	サントス厚生ホーム
10月	春祭り	サントス厚生ホーム
10/02、03	老人週間	援協福祉部
10/18、19	多文化フェスタ	さくらホーム
10/25	評議員会	援協本部
11月	運動会	あけぼのホーム
11/22、23、29、30 12/06、07、13、14、20、21	イルミネーション	さくらホーム
12/05	忘年会(利用者)	援協福祉部



Beneficência Nipo-Brasileira de São Paulo



Associação Nipo-Brasileira de Assistência Social - Enkyo

Sede Social 本部

www.enkyo.org.br
Rua Fagundes, 121 - 4º andar - Liberdade
São Paulo - SP 01508-030
Tel.: (11) 3274-6555 / sede@enkyo.org.br

Associados 会員課

Rua Fagundes, 121 - 4º andar - Liberdade
São Paulo - SP 01508-030
Tel.: (11) 3274-6494 / associados@enkyo.org.br

Assistência Médica Móvel (Junkai) 巡回診療班

Rua Fagundes, 121 - 4º andar - Liberdade
São Paulo - SP 01508-030
Tel.: (11) 3274-6512 / junkai@enkyo.org.br

Hospital Nipo-Brasileiro (HNIPO) 日伯友好病院

Rua Pistoia, 100 - Parque Novo Mundo
São Paulo - SP 02189-000
Tel.: (11) 2633-2200
www.hnipo.org.br / sac@hnipo.org.br

Hospital São Miguel Arcanjo (HSMA)

サンミゲル・アルカンジョ病院
Rua Tadashi Takenaka, 100 - Centro
São Miguel Arcanjo - SP 18230-000
Tel.: (15) 3279-8300 / lucas.sales@hospitalsma.org.br

Hospital Dr. Léo Orsi Bernardes (HLOB)

レオ・オルシ・ベルナルデス病院
Rua Padre Albuquerque, 245 - Centro
Itapetininga - SP 18200-220
Tel.: (15) 3275-7800 / diretoria@hlob.org.br

Centro Médico e Diagnóstico do HNIPO

リベルダーデ医療センター
Rua Fagundes, 121 - Térreo - Liberdade
São Paulo - SP 01508-030
Tel.: (11) 3274-6500 / centromedicodiagnostico@hnipo.org.br

Check-up 人間ドック Odontologia 歯科

Tel.: (11) 3274-6495
checkup@hnipo.org.br
Tel.: (11) 3274-6501
odonto.enkyo@hnipo.org.br

Unidade Comunitária do HNIPO

日伯友好病院福祉部
Rua Soldado João Pereira da Silva, 85 - Parque Novo Mundo
São Paulo - SP 02189-010
Tel.: (11) 2633-2384 / servicossocial@hnipo.org.br

Projeto de Integração Pró-Autista (PIPA)

自閉症児療育施設 - Pipa
Av. José Maria Fernandes, 618 - Parque Novo Mundo
São Paulo - SP 02185-030
Tel.: (11) 2633-2269 / pipa@enkyo.org.br

Sede Social 本部

www.enkyo.org.br
Rua Fagundes, 121 - 3º andar - Liberdade
São Paulo - SP 01508-030
Tel.: (11) 3274-6555 / sede@enkyo.org.br

Serviço Social 福祉部

Rua Fagundes, 121 - 3º andar - Liberdade
São Paulo - SP 01508-030
Tel.: (11) 3274-6518
social@enkyo.org.br

Casa de Repouso - Santos Kosei Home

高齢者養護施設 サントス厚生ホーム
Av. Campos Sales, 62-A - Vila Nova
Santos - SP 11013-400
Tel.: (13) 3232-9615 e (13) 3234-4614
koseihome@enkyo.org.br

Sakura Home Residencial Sênior

高齢者養護施設 さくらホーム
Av. Tassaburo Yamaguchi, 2.173-A - Vila Albertina
Campos do Jordão - SP 12460-000
Tel.: (12) 3662-2911 / sakurahome@enkyo.org.br

Casa de Repouso Akebono

高齢者特別養護施設 あけぼのホーム
Rua Agostinho José Ruivo, 222-A - Sítio São Francisco
Guarulhos - SP 07260-296
Tel.: (11) 2480-0553 / akebonohome@enkyo.org.br

Casa de Repouso Suzano (Ipelândia Home)

高齢者養護施設 イペランジアホーム
Estrada do Tani, 751-A - Vila Ipelândia
Suzano - SP 08620-080
Tel.: (11) 4742-6105 / ipelandia@enkyo.org.br